



2022 (令和4年) 年8月25日 (木) 発

【発行所】 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

【発行者】 応用生態工学会 編集責任者: 幹事長 天野 邦彦 事務局長 住谷 昌宏

1	はじめに.....	1
2	応用生態工学会 第26回総会案内.....	2
3	3学会合同大会 (ELR2022 つくば) 開催案内.....	5
4	理事会・幹事会報告.....	42
5	2021年度行事経過と今後の予定.....	46
6	事務局より.....	47

1 はじめに

今年度3回目のニュースレターとなります。第26回総会案内、ELR2022つくば大会の開催案内など、学会の動きをお伝えします。

今年のELE2022つくば大会は、9月20日(火)～23日(金)につくば国際会議場において開催します。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。大会は、対面形式とオンライン形式の併用にて開催します。

なお、参加申し込み(前納)の期限は8月31日(水)です。大会運営をスムーズに行うため、早期の申し込みと振り込みにご協力をお願いします。会場定員には限りがあります。お早目のお申込みをお願いします。

2 応用生態工学会第 26 回総会案内

令和 4 年 8 月 25 日

応用生態工学会
正会員 各位

応用生態工学会
会 長 占部 城太郎

第 26 回総会の開催について（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

応用生態工学会第 26 回総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席をお願いいたします。

お手数ですが、出欠のご返答を事務局までお知らせください。

敬具

記

1. 日時：令和 4 年 9 月 23 日（金）13 時 00 分～13 時 50 分

2. 場所：つくば国際会議場 小会議室 406

3. 審議事項

(1)第 1 号議案 2021 年度（令和 3 年度）決算・監査報告

（参考） 2022 年度（令和 4 年度）事業実施状況・収支見込み

(2)第 2 号議案 2023 年度（平成 5 年度）事業計画案

(3)第 3 号議案 2023 年度（平成 5 年度）予算案

なお、総会資料は、学会ホームページ (<https://www.ecesj.com/>) に掲載しています。

=====

応用生態工学会事務局長 住谷 昌宏

平素より当学会の活動にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございます。

学会第 26 回総会が令和 4 年 9 月 23 日（金）につくば国際会議場において開催されます。

本日、学会ホームページに第 26 回総会資料を掲載いたしましたので、内容をご確認いただき、9 月 9 日（金）までに、「第 25 回総会議事 Web 回答」フォーム (<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=soukai>) または下段の「返信フォーム」(soukai26@ecesj.com に送付) にて、総会への出席・欠席のご返答をお願いします。なお、ご欠席される場合には委任状・議決権行使書にご記入のうえご返答をお願いいたします。

総会の成立には、正会員の 1 / 5 以上の出席（委任状・議決権行使書を含む）が必要ですので、ご欠席される場合には必ず委任状・議決権行使書を返信いただきますよう、お願い申し上げます。

（※総会是对面方式のみで開催しますので、Web 参加はできません。）

学会ホームページ「第 26 回総会議事 Web 回答」フォーム、は以下のとおりです。

■「第 26 回総会議事 Web 回答」フォーム■

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=soukai>

なお、応用生態工学会ホームページ「第 26 回総会議事 Web 回答」フォームで回答できない場合には下記のフォームにて返信フォームメール宛先に返送をお願いします。

■返信フォームメール宛先■

返信先 soukai26@ecesj.com

===== ■返信フォーム■ =====

下記のフォームに、総会へのご出席・欠席、ご欠席の場合には委任状または回答書の記入をお願いします。委任状については、代理人欄にお名前が記載されていない場合には、総会議長に委任することとさせていただきます。

■■■■9 月 9 日（金）までに soukai26@ecesj.com にご返信ください■■■■

《御出席・御欠席》（いずれかを消してください。）

お名前：

***** 委 任 状 *****

応用生態工学会

会長 占部 城太郎 殿

私は、_____を代理人と定め、次の権限を委任します。

・令和 4 年 9 月 23 日開催の応用生態工学会第 26 回総会で審議される議案について議決権を行使すること

令和 4 年 月 日

所属または住所：

氏 名：

〔代理人の欄に記名がない場合は、総会議長に委任する扱いとします。〕

総会を欠席、かつ、委任状を提出されない方は、議決権行使書の提出をお願いします。

***** 議決権行使書 *****

応用生態工学会

会長 占部 城太郎 殿

私は、議案書を確認し以下のとおり議決権を行使します。

・令和 4 年 9 月 23 日開催の応用生態工学会第 26 回総会で審議される議案について回答します。
 信任される場合は、何も記入せずにこのまま返信してください。
 議案に反対の場合のみ、議案欄に＜ × ＞を記入してください。

- (1)第 1 号議案 2021 年度（令和 3 年度）決算・監査報告 ＜ ＞
 （ご意見等（自由記入 300 字以内）： ）
 (2)第 2 号議案 2023 年度（平成 5 年度）事業計画案 ＜ ＞
 （ご意見等（自由記入 300 字以内）： ）
 (3)第 3 号議案 2023 年度（平成 5 年度）予算案 ＜ ＞
 （ご意見等（自由記入 300 字以内）： ）

令和 4 年 月 日

所属または住所：

氏 名：

3 3 学会合同大会 (ELR2022 つくば) 開催案内

ELR2022 つくば 実行委員会

日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会3学会合同大会 『ELR2022 つくば』のご案内

開催日時：2022 年 9 月 20 日(火)～23 日(金) つくば国際会議場 (エポカルつくば)

開催方法：対面＋WEBのハイブリット形式

大会HP：<https://elr2022.com>

※本大会は建設コンサルタンツ協会のCPD及び森林分野CPDの認定プログラムです。

【開催趣旨】

日本緑化工学会、日本景観生態学会、応用生態工学会の3学会は、ともに生態分野の応用的研究を行う学術団体であり、研究者間の交流、研究成果の公表体制の強化などをねらいとして、英文誌 LEE (Landscape and Ecological Engineering) の発行などの協力・連携活動を行ってまいりました。また、2008 年、2012 年、2017 年には一層の連携を図るため、合同大会である ELR を実施してきました。今回これらの活動を継続し、発展させるため、4 回目の 3 学会合同大会である『ELR2022』を茨城県つくば市で開催することとしました。なお、ELR は 3 学会の英名から 1 文字をとったものです。今回の『ELR2022 つくば』のテーマは、ネイチャーポジティブ (Nature Positive) としました。これは「生物多様性の減少傾向を食い止め、回復に向かわせる」ことを指し、2030 年までの達成が国際的な目標になっています。目標達成には社会・経済に変革を起こし、自然資本を持続可能なように利用することが必要となるため、環境保護の観点だけでなく、ビジネス界からの関心もかつてなく高まっています。このネイチャーポジティブの実現に向けて何が必要か、何かできるかについて、人と自然が関わる場を主な研究対象にしている 3 学会で連携して、みんなで考えたいと思います。公開シンポジウムでもこのテーマで議論を行う予定です。各学会の会員の皆さまからの関連する研究発表や革新的な議論を期待しています。

1. 大会概要

(1) 日程

9 月 20 日 (火) エクスカーション 鬼怒川・小貝川コースと筑波山コース

9 月 21 日 (水) 各学会委員会等、自由 (研究) 集会、公開シンポジウム

9 月 22 日 (木) 研究発表 (口頭、ポスター (掲示・コアタイム))、企業展示、自由 (研究) 集会

9 月 23 日 (金) 研究発表 (口頭)、企業展示、研究集会、各学会総会

※本大会は建設コンサルタンツ協会の CPD 及び森林分野 CPD の認定プログラムです。

2. 参加・発表申し込み

(1) 参加申込み

参加、発表登録ページ (<https://elr.confite.atlas.jp/login>) から申し込みをお願いします (WEB)

[での参加申し込み](#) 8 月 31 日)。(発表申し込みは終了)

団体等の請求書払いには下記必要事項をメールで送付願います。事務局から請求書をお送りいたします(お支払締め切り:10/31)。

送付先: ELR2022 つくば実行委員会 担当 丸谷 elr2022office@gmail.com

タイトル: 【請求書記載事項】

記載事項: 請求書宛先(社名、団体名)、金額、内訳等

大会参加費

大会参加費	正会員・賛助会員	学生(会員・非会員共通)	一般
前納参加	5,000 円	2,000 円	8,000 円
当日参加	6,000 円	2,000 円	8,000 円

※当日参加は会場受付で申し込みと支払いをお願いします。

※エクスカーション費用は別途費用が必要です。

※懇親会については現時点では開催予定はありません。

【日本緑化工学会誌大会特集号(第 48 巻 1 号)の入手について】

日本緑化工学会会員以外の方で希望する方は、1 部 3,000 円でご購入頂けます。特集号はデジタル化されており、電子版(PDF 版)のダウンロードをご案内致します。

冊子体を希望する方は送料追加でご購入が可能です(冊子体の発送は大会終了後となります)。お申し込み方法は本サイトにてご案内致します。振り込みを確認の上、郵送します(3,000 円/1 冊 + 送料)。

3. 公開シンポジウム「Nature-positive を実現させるにはー2030 年にむけてー」

＜このシンポジウムは、公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けています＞

公開シンポジウムへの参加受付中です。会場とオンラインでの参加が可能です。

日時: 2022 年 9 月 21 日(水) 13:30~16:30

会場: つくば国際会議場(エポカルつくば) 中ホール 200

参加費: 無料

事前申込制 会場参加: 先着 200 名

オンライン(Zoom ウェビナー)参加: 先着 1,000 名

※会場参加者多数の場合、会議場内の他の会議室での視聴も可能とする予定です。

1) 会場参加申し込みページ

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdLyma8jVPez7-jlXoFk-yFZbMSZuYgTVaewiNfua0VpwKQxQ/viewform>

2) オンライン(Zoom ウェビナー)参加申し込みページ

https://zoom.us/webinar/register/WN_8AE23LdVS2qLGHVInmRP0g

※コロナ感染症の状況によってはホールでの参加人数を制限する場合があります。

※本イベントは建設コンサルタンツ協会の CPD 及び森林分野 CPD の認定プログラムです。

概要

「ネイチャーポジティブ (Nature Positive)」は「生物多様性の減少傾向を食い止め、回復に向かわせる」ことを指し、その 2030 年までの達成が国際的な目標になっています。目標達成には社会・経済に変革を起こし、自然資本を持続可能なように利用することが必要となるため、環境保護の観点だけでなく、ビジネス界からの関心もかつてなく高まっています。本公開シンポジウムは、人と自然が関わる場を主な研究対象にしている 3 学会が連携して開催し、この分野の複数の専門家及び行政から最新の情報を共有するとともに、ネイチャーポジティブの実現に向けて何が必要か、何かできるかについて、みんなで考えたいと思います。

第一部では、ネイチャーポジティブをめぐる経済・社会の第一線で活躍されている皆様から、最新の動向について話題提供がなされる予定です。ESG 投資、TNFD、新生物多様性国家戦略、30by30、OECM、グリーンインフラなどがキーワードです。

第二部では、これら国際的な潮流を日本の未来の構築にどのように繋げていくのかについて意見交換します。日本国内の地域の文化・防災・コミュニティを支える「身近な自然」は、気候変動の進行、経済成長の低迷、若者の自尊心の低下などが問題視される現在・未来において、さらに重要性を増すことが指摘されています。ネイチャーポジティブの潮流をより有意義・着実にするには何が必要か、その実現の先に何があるのかについて、立場を超えて議論します。

参加者それぞれが、新しい研究、施策、ビジネスを考えるきっかけになるシンポジウムを目指します。どうぞご期待ください。

プログラム

13 : 30～13 : 35 挨拶・趣旨説明

国立環境研究所気候変動適応センター室長 西廣 淳 (応用生態工学会幹事)

13 : 35～15 : 05 第 1 部 : 話題提供

「生物多様性と経済活動に関する最近の動向と研究への期待」

日経 ESG シニアエディター・東北大学大学院生命科学研究科教授 藤田 香

「TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース) が目指すもの」

MS&AD インシュアランスグループホールディングス TNFD 専任 SVP 原口 真

「生物多様性保全の新たな国際枠組みと次期生物多様性国家戦略」

環境省自然環境局生物多様性戦略推進室室長 山本 麻衣

「民間企業の取組／生態系に配慮した造園緑化事業、生物多様性の実効性評価分析」

積水ハウス株式会社 ESG 経営推進本部環境推進部課長 八木 隆史

「Nature-positive の実現に向けたグリーンインフラの評価と技術」

公益財団法人リバーフロント研究所 主席研究員 中村 圭吾

15 : 10～16 : 30 第 2 部 : パネルディスカッション

「Nature-positive を実現させるには」

コーディネーター :

国立環境研究所気候変動適応センター室長 西廣 淳

パネリスト：

山梨大学大学院総合研究部地域防災・マネジメント研究センター助教 大槻 順朗
北広島町立芸北高原の自然館 主任学芸員 白川 勝信
京都大学大学院 地球環境学堂 地球親和技術学廊助教 貫名 涼
国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 課長補佐 佐藤 希世
環境省自然環境局生物多様性戦略推進室室長補佐 奥田 青州

【お問い合わせ先】

ELR2022 つくば 公開シンポジウム事務局（担当：西・川口・村上）

E-mail: sympo-inq@ecesj.com

4. 研究発表

日時：2022 年 9 月 22 日（木）、23 日（金）

会場：つくば国際会議場 小会議室 303 405 406

研究発表会は下記に示す 108 編の発表が予定されています。プログラムは以下のとおりです。会場参加のほか、WEBでのオンライン参加も可能です。

(2022 年 8 月 16 日時点)

【研究発表】

「*」発表者

口頭発表 9 月 22 日(木)

セッション A 緑化

09:00	O-A-01	連続繊維複合補強土工による樹林化のり面の UAV 搭載型レーザースキャナーを併用した植生追跡調査 *山梨 太郎 1, 2、佐藤 康弘 1, 2、近藤 保徳 1, 2、土田 萌 1、山田 守 2 1.日特建設株式会社, 2.ジオファイバー協会連合会
09:15	O-A-02	ヘデラ類ポット苗の茎の引張強度への灌水抑制の効果 *大澤 啓志 1、室橋 美早紀 2、馬場 湧作 3、岡田 陽介 4、清水 秀一 5 1.日本大学生物資源科学部, 2.株式会社グリーンアンドアーツ, 3.西武造園株式会社, 4.株式会社グリーニアン, 5.清水園芸
09:30	O-A-03	ニホンジカの採食行動における不嗜好性順位に関する実験 *大西 貴一 1、中村 剛 2, 3、藤原 宣夫 2 1.大阪府立大学大学院生命環境科学研究科, 2.大阪公立大学大学院農学研究科, 3.日本植生株式会社
09:45	O-A-04	物理的性質が異なるウレタン樹脂の植栽基盤としての適性の検討 *紀 昊青 1、高橋 輝昌 1、人見 拓哉 1、王 玲玲 1、長谷川 啓示 2 1.千葉大学園芸学研究科, 2.アップコン株式会社
10:00	O-A-05	令和元年房総半島台風による広葉樹林被害要因の GIS 解析 *小林 達明 1、清水 海優 2、加藤 顕 1、高橋 輝昌 1、丸山 喜久 3 1.千葉大学大学院園芸学研究院, 2.千葉大学園芸学部, 3.千葉大学大学院工学研究院
10:15	O-A-06	自然公園における地域性種苗の緑化普及を目指した予備的調査 *中村 華子 1、杉万 裕一 2、山下 淳一 3、中島 敦司 4 1.緑化エラボ, 2.株式会社一成, 3.環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所, 4.和歌山大学システム工学部
10:30	O-A-07	10 種類の草本植物の根系を含む土供試体のせん断特性に関する経年評価 *宗岡 寿美 1、新田 祥吾 1, 2、山崎 由理 3, 4、木村 賢人 1、辻 修 1, 5 1.帯広畜産大学, 2.新田農場, 3.東京農業大学, 4.鳥取大学農学部, 5.(株)ズコーシャ

セッション B 保全生態		
10:45	O-B-01	農地景観における森林特性がフクロウの分布に与える影響 *森田 季恵 1、赤坂 卓美 1、外山 雅大 2 1.帯広畜産大学, 2.根室市歴史と自然の資料館
11:00	O-B-02	トキ野生復帰推進の社会的枠組みとその課題 *岩浅 有記 1, 2、鎌田 磨人 3 1.徳島大学大学院先端技術科学教育部, 2.大正大学地域構想研究所, 3.徳島大学大学院社会産業理工学研究部
11:15	O-B-03	環境アセスメントにおけるキンランの効果的な移植技術の開発 *長浜 庸介 1、上野 裕介 1, 2、遊川 知久 3、大城 温 1 1.国土交通省国土技術政策総合研究所, 2.石川県立大学生物資源環境学部, 3.国立科学博物館筑波実験植物園
11:30	O-B-04	淡路島におけるチドリ類をフラッグシップとした 保全ネットワークの構築と実践 *立田 彩葉 1, 4、藤原 道郎 2, 3 1.パシフィックコンサルタンツ株式会社, 2.兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科, 3.淡路景観園芸学校, 4.兵庫県立大学
11:45	O-B-05	耕作放棄された谷津の湿地化は水生動物群集にどのような効果をもたらすか？ *田和 康太 1、平野 佑奈 2、松島 野枝 2、加藤 大輝 2、橋本 純 3、渡部 陽介 3、西廣 淳 1 1.国立環境研究所, 2.東邦大学, 3.清水建設(株)

セッション C 外来種		
09:00	O-C-01	刈取り回数の違いがヨシススキとススキの種間競争の優位性に及ぼす影響 *稲垣 栄洋 1、小林 陽平 1 1.静岡大学
09:15	O-C-02	三春ダムにおける外来魚の継続的な防除でみられた在来魚等の確認状況の変化 *坂本 正吾 1、稲川 崇史 1、沖津 二郎 1、中井 克樹 2、大杉 奉功 3、松崎 厚史 4、佐々木 良浩 4 1.応用地質株式会社, 2.滋賀県立琵琶湖博物館, 3.一般財団法人水源地環境センター, 4.国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所
09:30	O-C-03	環境 DNA を用いた江の川水系におけるオオカナダモの季節的繁茂特性の把握 *宮平 秀明 1、宮園 誠二 1、赤松 良久 1 1.山口大学大学院
09:45	O-C-04	ダム湖の外来魚オオクチバスにおける新たな駆除効果の評価方法の開発; 大規模 DNA 分析を用いた高精度近親関係解析による個体数推定法の適用 奥村 健太 1、野原 健司 1、井戸 啓太 2、坂本 正吾 3、稲川 崇史 3、沖津 二郎 3、松崎 厚史 4、佐々木 良浩 4、大杉 奉功 5、秋田 鉄也 6、田原 大輔 7、*武島 弘彦 7 1.東海大学 海洋学部, 2.京都大学大学院 理学研究科, 3.応用地質, 4.国交省 三春ダム管理所, 5.水源地環境センター, 6.水産研究・教育機構 水産資源研究所, 7.福井県立大学 海洋生物資源臨海研究センター
10:00	O-C-05	冬季ダム湖におけるオオクチバス (<i>Micropterus salmoides</i>) の行動生態の解明 *山本 竜司 1、長岡 祥平 1、佐藤 信彦 2、南 憲吏 3、黒田 充樹 1、稲川 崇史 4、坂本 正吾 4、沖津 二郎 4、大杉 奉功 5、白川 北斗 6、東 信行 7、上田 健太 1、中森 陸 1、宮下 和士 2 1.北海道大学大学院環境科学院, 2.北海道大学北方生物圏フィールド科学センター, 3.島根大学 エスチュアリー研究センター, 4.応用地質株式会社, 5.一般財団法人水源地環境センター, 6.国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所, 7.弘前大学 農学生命科学部

セッション D 環境DNA		
10:15	O-D-01	環境 DNA 分析の新展開: 系統地理学への適用とその有用性の検証 *辻 冨月 1、芝田 直樹 2、乾 隆帝 3、中尾 遼平 4、赤松 良久 4、渡辺 勝敏 1 1. 京都大学, 2. (株)環境総合リサーチ, 3. 福岡工業大学, 4. 山口大学
10:30	O-D-02	環境 DNA 分析によるダム湖におけるアユの生息場利用および季節動態の把握 *中尾 遼平 1、辻 冨月 2、中原 忠義 3、内藤 信二 3、滝本 雅之 3、馬場 貴裕 3、赤松 良久 1 1. 山口大学大学院創成科学研究科, 2. 京都大学大学院理学研究科, 3. (独)水資源機構
10:45	O-D-03	溪流保全工が整備された区間における環境 DNA 調査の適用 鈴木 啓介 1、戸田 満 1、川邊 三寿帆 1、谷川 優太 1、島村 彰 2、*横山 良太 2、関根 洋 2、釣 健司 2 1. 国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所, 2. 株式会社 建設環境研究所
11:00	O-D-04	MiFish 領域にみられる魚類の流域スケールでの空間遺伝構造 *中島 颯大 1、菅野 一輝 1、村岡 敬子 1、篠原 隆佑 1、崎谷 和貴 1、金谷 将志 2 1. 土木研究所, 2. 国土交通省
11:15	O-D-05	気候変動に対する魚類分布域の応答予測に関する基礎的検討 *滝山 路人 1、赤松 良久 2、大中 臨 2、小林 勘太 3、宮園 誠二 2、乾 隆帝 4、中尾 遼平 2 1. 山口大学工学部社会建設工学科, 2. 山口大学大学院創成科学研究科, 3. (株)建設環境研究所自然環境部, 4. 福岡工業大学社会環境学部社会環境学科
11:30	O-D-06	河川水を対象とした鳥類の環境DNAメタバーコーディング解析の検出特性 *篠原 隆佑 1、田和 康太 2、菅野 一輝 1、村岡 敬子 1、崎谷 和貴 1 1. (国研)土木研究所, 2. (国研)国立環境研究所
11:45	O-D-07	環境 DNA 手法を用いた江の川浜原ダム下流における魚類の季節変動の把握 *花岡 拓身 1、赤松 良久 1、丸山 啓太 1、宮園 誠二 1、中尾 遼平 1、齋藤 稔 2 1. 山口大学大学院創成科学研究科, 2. 国際農林水産業研究センター

セッション E グリーンインフラ		
09:00	O-E-01	雨庭に適した緑化植物の選定:多年草草本 15 種の冠水耐性の検証 *水口 将武 1、阿野 晃秀 1 1.京都先端科学大学大学院
09:15	O-E-02	緑地の降雨の浸透能を必要な精度で簡便に推定できる手法の検討 *戸田 克稔 1 1.国立研究開発法人建築研究所
09:30	O-E-03	緑地が有する雨水貯留浸透機能の評価方法に関する調査研究 *金 甫炫 1、大石 智弘 2 1.国土交通省 国土技術政策総合研究所, 2.内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部
09:45	O-E-04	つくば市における芝畑のグリーンインフラ効果-雨水浸透に着目した評価- *劉 山 1、藤田 直子 2 1.筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群芸術学学位プログラム(博士前期過程), 2.筑波大学芸術系
10:00	O-E-05	大学キャンパスの多面的機能評価に関する研究 *中河 名生 1、須藤 朋美 2、伊東 啓太郎 2、石塚 直登 2 1.九州工業大学大学院工学府, 2.九州工業大学大学院工学府工学研究員
10:15	O-E-06	Eco-DRR の視点からみた土地利用による景観パターンの変化に関する研究——東京と上海を例として *唐 明暉 1、藤田 直子 2 1.筑波大学 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 芸術学学位プログラム 博士後期課程, 2.筑波大学 芸術系 教授
10:30	O-E-07	複数の霞堤を有する長良川谷底平野部における多段階洪水外力下での氾濫現象 *中島 大雅 1、原田 守啓 2、瀧 健太郎 3 1.岐阜大学大学院自然科学技術研究科 環境社会基盤工学専攻, 2.岐阜大学准教授 流域圏科学研究センター, 3.滋賀県立大学准教授 環境科学部
10:45	O-E-08	Revisiting the trending green infrastructure horizons towards sustainability - A review of research for the last 10 years (2012-2022) - *Herath Mudiyanseelage Malhamige Sonali Dinesha Herath1、Mudalige Don Hiranya Jayasanka Senavirathna1、Fujino Takeshi1 1.Department of Science and Engineering, Saitama University, Japan
11:00	O-E-09	宮城県気仙沼市大谷海岸における海岸防潮堤法面への覆砂と自生種導入効果について *松島 肇 1、黒沢 高秀 2、島田 直明 3、平吹 喜彦 4、岡 浩平 5、鈴木 玲 6、大越 陽 7、徐 夢林 7 1.北海道大学大学院農学研究院, 2.福島大学, 3.岩手県立大学, 4.東北学院大学, 5.広島工業大学, 6.北の里浜 花のかけはしネットワーク, 7.北海道大学大学院農学院

セッション F 環境修復		
11:15	O-F-01	海岸防災林復旧事業地における生物多様性保全対策の取組み *安藤 みゆ 1、小山 浩之 1、中静 透 2 1.国土防災技術株式会社, 2.国立研究開発法人 森林研究・整備機構
11:30	O-F-02	国立公園内における移入種除去及び植生遷移モニタリング事例報告 *伊豆 凜太郎 1、真木 伸隆 1、土岐 君仁 1、上田 夏希 1、鬼久保 浩正 1、渡辺 有紀 1、青森県上北地域県民局 地域整備部 1.パシフィックコンサルタンツ(株)
11:45	O-F-03	民間資本導入による自然保護区管理体制強化で山火事被害を防止し森林を再生した事例 *家根橋 圭佑 1、浅野 剛史 1、吉野 倫典 1 1.日本工営株式会社
セッション G ランドスケープ計画		
13:30	O-G-01	樹木葬墓地の全国的な展開と緑地空間における景観評価 *今泉 優子 1、藤田 直子 2 1.筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究軍芸術学学位プログラム(博士前期課程), 2.筑波大学芸術系
13:45	O-G-02	富山県砺波地方における明治期以降の自然災害の変遷 *王 聞 1、柴田 昌三 1、深町 加津枝 1 1.京都大学地球環境学堂
14:00	O-G-03	自然・文化景観の保全と継承に関する研究-福岡県福津市を対象として- *坂本 裕哉 1、伊東 啓太郎 2、須藤 朋美 2 1.九州工業大学大学院工学府, 2.九州工業大学大学院工学研究院
14:15	O-G-04	Study on the Designation of the first National Park in the world *口井 隆司 1 1.和歌山大学
14:30	O-G-05	農福連携を促す農園のランドスケープの空間特性 *田 子楽 1、藤田 直子 2 1.筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群芸術学学位プログラム(博士後期課程), 2.筑波大学芸術系

セッション H 環境マネジメント		
14:45	O-H-01	デジタル技術を用いた公園管理の取り組み *金子 是久 1 1.北総生き物研究会
15:00	O-H-02	多主体協働による里山のマネジメント手法に関する研究 *緒方 悠磨 1、長谷川 逸人 1、伊東 啓太郎 2 1.九州工業大学大学院工学府, 2.九州工業大学大学院工学研究院
15:15	O-H-03	金融業界と生物多様性—徳島県における株主コミュニティの取り組み *朝波 史香 1、泊 健一 2、鎌田 磨人 1 1.徳島大学大学院社会産業理工学研究部, 2.徳島合同証券株式会社
セッション I 生態系サービス		
15:30	O-I-01	京都市左京区鞍馬における伝統文化と生物多様性のための里山再生 *深町 加津枝 1 1.京都大学
15:45	O-I-02	漬物作りを通じた自然資本の持続可能な利用に関する日中比較 —山形県と中国四川省における文化的景観の形成— *スン スシエア 1、藤田 直子 2 1.筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群芸術学学位プログラム(博士後期課程), 2.筑波大学芸術系
16:00	O-I-03	開花展葉判定によるトチノキ(<i>Aesculus turbinata</i>)個体群のフェノロジー評価 *飯田 義彦 1 1.筑波大学
15:00	O-I-04	中山間地域におけるコミュニティ・ビジネスのコアとしての山菜料理屋「みたき園」—自然資本をサービスに転換するための知恵と社会関係資本— *横畑 健介 1、大元 鈴子 2、丹羽 英之 3、鎌田 磨人 4 1.徳島大学理工学部社会基盤デザインコース, 2.鳥取大学地域学部, 3.京都先端科学大学, 4.徳島大学大学院社会産業理工学研究部

セッション J 河川環境		
13:30	O-J-01	中聖牛を設置した木津川の高水敷たまりでの洪水攪乱と季節による水生生物群集の変化 *石田 裕子 1、中村 萌 2、片野 泉 3、竹門 康弘 4 1.摂南大学理工学部都市環境工学科, 2.奈良女子大学大学院人間科学研究科, 3.奈良女子大学大学院自然科学系, 4.京都大学防災研究所
13:45	O-J-02	那賀川上流域の異なる土砂供給区間におけるコウモリの活動量比較 *相江 広紀 1、佐藤 雄大 1、赤坂 卓美 2、河口 洋一 1 1.徳島大学, 2.帯広畜産大学
14:00	O-J-03	iRIC を用いた魚道の遡上シミュレーション *藤田 朝彦 1、加藤 康充 1、富田 邦裕 1、久加 朋子 2、清水 康行 3 1.(株)建設環境研究所, 2.富山県立大学工学部, 3.北海道大学大学院工学研究院
14:15	O-J-04	砂州河道の河道掘削が瀬淵の生態的機能に及ぼす影響 *原田 守啓 1、永山 滋也 2、萱場 祐一 3 1.岐阜大学流域圏科学研究センター, 2.岐阜大学地域環境変動適応研究センター, 3.名古屋工業大学
14:30	O-J-05	UAV を使い取得した熱赤外オルソモザイク画像を用いた河川の水温分布の把握 *丹羽 英之 1、金谷 都洋嗣 1 1.京都先端科学大学
14:45	O-J-06	河川流域の感熱特性を流域と河道の特徴から理解する —中国地方 3 流域を例に— *溝口 裕太 1、赤松 良久 2、宮本 仁志 3、崎谷 和貴 1 1.土木研究所, 2.山口大学大学院, 3.芝浦工業大学
15:00	O-J-07	火山山麓での二酸化炭素ガス湧出をとまなう湧水域の水質と付着物の特性 *宇佐見 亜希子 1、田代 喬 1、野崎 健太郎 2、松本 嘉孝 3、江端 一徳 3、谷口 智雅 4、坪井 秀樹 5、八木 明彦 6、岩月 栄治 6 1.名古屋大学減災連携研究センター, 2.相山女学園大学, 3.豊田工業高等専門学校, 4.三重大学, 5.一般財団法人東海技術センター, 6.愛知工業大学
15:15	O-J-08	河川生態系モデルを用いた気候変動に伴う水温上昇が水生生物に及ぼす影響に関する検討 *福丸 大智 1、赤松 良久 1、小林 勘太 2 1.山口大学創成科学研究科, 2.株式会社 建設環境研究所自然環境部

15:30	O-J-09	都市河川豊平川における水温レフュージ
		*根岸 淳二郎 1、中村 慎吾 2、折戸 聖 3、有賀 望 2、根岸 鈴 4、根岸 豊 5、中村 太士 1
		1.北海道大学, 2.札幌市豊平川さけ科学館, 3.北海道栽培漁業振興公社, 4.札幌第一高等学校, 5.札幌南高等学校
15:45	O-J-10	洪水が小規模の人工ワンドの生物生息空間に与える影響
		*阿部 晟大 1、田中 耕司 2、中西 史尚 3
		1.大阪工業大学大学院, 2.大阪工業大学, 3.河川財団
16:00	O-J-11	亜熱帯性島嶼奄美大島における河川底生動物の餌料源解析
		*高橋 真司 1、阿部 信一郎 2、竹門 康弘 3、井口 恵一朗 4
		1.東北大学, 2.茨城大学, 3.京都大学, 4.長崎大学
16:15	O-J-12	野鳥川に現存する歴史的空白積み護床工の有する水生生物の生息場としての環境機能
		*林 博徳 1、児嶋 力也 2、外山 英志郎 1、島谷 幸宏 3
		1.九州大学, 2.福岡市役所, 3.熊本県立大学
セッション K 都市環境		
13:30	O-K-01	機械学習を応用した緑地環境によるゼロ次予防推進のための疫学研究プロジェクト【第 2 報】
		*大塚 芳嵩 1, 2, 3、今西 純一 1, 2、那須 守 4、岩崎 寛 3
		1.大阪公立大学大学院農学研究科, 2.大阪国際感染症研究センター, 3.千葉大学大学院園芸学研究院, 4.室蘭工業大学大学院工学研究科
13:45	O-K-02	都市のエコロジカルネットワークにおける街路樹の機能に関する研究 —北九州市小倉北区を対象として—
		*谷尾 道希 1、須藤 朋美 2、長谷川 逸人 1、伊東 啓太郎 2
		1.九州工業大学大学院工学府, 2.九州工業大学大学院工学府工学研究員
14:00	O-K-03	地上レーザーと深層学習による壁面緑化植物の葉面積測定
		*加藤 顕 1、山口 洵 2、彦坂 晶子 1、栗木 茂 3、大島 佳保里 3、上柳 燎平 3、浅野 涼太 3
		1.千葉大学 大学院園芸学研究院, 2.千葉大学 園芸学部, 3.戸田建設株式会社技術研究所

セッション L 道路		
14:15	O-L-01	都市交通計画から考える都市緑化の可能性: 明日への布石 *石松 一仁 1 1. 明石工業高等専門学校 都市システム工学科
14:30	O-L-02	植物根系が層構造を有する土供試体のせん断強度特性に与える影響 *三浦 直己 1、中村 大 1、川口 貴之 1、宗岡 寿美 2、川尻 峻三 1 1. 北見工業大学, 2. 帯広畜産大学
14:45	O-L-03	沖縄島中南部における道路街路樹 3 樹種に発生した胴吹きとひこばえの実態調査 *谷口 真吾 1、田場 睦規 1, 2、松本 一穂 1 1. 琉球大学農学部, 2. 大和ハウス工業株式会社
15:00	O-L-04	クサヨシ(<i>Phalaris arundinacea</i> L.)を利用した植生工の雨滴に対する侵食防止効果の評価 *五郎部 生成 1、中村 大 1、川尻 峻三 1、川口 貴之 1、宗岡 寿美 2、菖蒲 哲也 3 1. 北見工業大学, 2. 帯広畜産大学, 3. アヤマ緑化工業
セッション M その他		
15:15	O-M-01	子どもの動植物に対する興味に着目した小学校ビオトープの活用方法の提案 *星野 愛結 2、伊東 啓太郎 1、須藤 朋美 1、長谷川 逸人 2、松村 竜也 2、谷尾 道希 2 1. 九州工業大学大学院工学研究院, 2. 九州工業大学大学院工学府
15:30	O-M-02	河川流域の歴史的景観を復元する研究手法 -16 世紀後半筑後川下流の城館から①- *中西 義昌 1 1. 北九州市立自然史・歴史博物館
15:45	O-M-03	インドネシア・バリ島の伝統的「外庭」の社会・生態的機能評価 *加藤 禎久 1、菱山 宏輔 2、Agung Darmadi 3 1. 公立鳥取環境大学, 2. 専修大学, 3. ウダヤナ大学
16:00	O-M-04	物理環境条件に基づく国立公園の特徴把握 *伊勢 紀 1, 2、鎌田 磨人 3 1. 徳島大学先端技術科学教育部, 2. Pacific Spatial Solutions 株式会社, 3. 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
16:15	O-M-05	瀬戸内海の島々の植生景観を決定づける自然・社会条件 *森定 伸 1、伊勢 紀 1、鎌田 磨人 2 1. 徳島大学大学院先端技術科学教育部, 2. 徳島大学社会産業理工学研究部
口頭発表 9 月 23 日(金)		
セッション N 生息場・生息地評価		
09:00	O-N-01	遠州灘海岸における海浜性植物の生育要因: 生育基盤要因と攪乱要因に着目して *萱場 祐一 2、大西 望夏 1

09:15	O-N-02	1.五洋建設株式会社, 2.名古屋工業大学 ダム湖における魚類行動の可視化 *長岡 祥平 1、南 憲吏 2、稲川 崇史 3、坂本 正吾 3、沖津 二郎 3、白川 北斗 4、大杉 奉功 5、東 信行 6、黒田 充樹 1、上田 健太 1、中森 陸 1、朱 妍卉 1、佐藤 信彦 2、宮下 和士 2
09:30	O-N-03	1.北海道大学大学院 環境科学院 生物圏科学専攻, 2.北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 生態系変動解析分野, 3.応用地質株式会社 地球環境事業部 応用生態工学研究所, 4.国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター, 5.一般財団法人 水源地環境センター, 6.弘前大学 農学生命科学部 田植え時期と輪作の有無が田面水中の水生動物群集に及ぼす影響 *安野 翔 1
09:45	O-N-04	1.埼玉県環境科学国際センター 北海道大黒島で繁殖するウトウを対象とした洋上風力発電センシティブティマップの開発 *河口 洋一 1、佐藤 雄大 1、藪原 佑樹 1、大門 純平 2、綿貫 豊 2 1.徳島大学大学院社会産業理工学研究部, 2.北海道大学大学院水産科学研究院
10:00	O-N-05	河床耕耘によるアユ生息場の改善効果の検証 *内田 朝子 1、間野 静雄 2 1.豊田市矢作川研究所, 2.川の研究室
10:15	O-N-06	ワカサギの生息適水温域に着目した北浦の水温観測データの可視化について *八丈 裕己 1、金山 明広 1 1.独立行政法人水資源機構
10:30	O-N-07	自律航行ボートを用いた湖底環境マッピングシステムの開発 *相田 拓郎 1、山田 浩之 2、尾山 洋一 3 1.北海道大学大学院農学院, 2.北海道大学大学院農学研究院, 3.釧路市教育委員会マリモ研究室
10:45	O-N-08	宇治川における止水性生息場の保全創出のための河道地形評価 *竹門 康弘 1、Wang Jue、角 哲也 1 1.京都大学防災研究所水資源環境研究センター
11:00	O-N-09	由良川における河川整備によるリスクの変遷と洪水時の堤内地を含めた退避場所 *関 圭祥 1、田中 耕司 2 1.大阪工業大学大学院, 2.大阪工業大学
セッション O モニタリング		
11:15	O-O-01	VR カメラを用いた水圏生態系モニタリングシステムの開発 *奈良 竜征 1、山田 浩之 2、尾山 洋一 3 1.北海道大学大学院農学院, 2.北海道大学大学院農学研究院, 3.釧路市教育委員会マリモ研究室
11:30	O-O-02	衛星リモートセンシングによる広域的な植生の連結性評価 *平山 英毅 1, 2、原 慶太郎 1 1.東京情報大学総合情報学部, 2.千葉大学環境リモートセンシング研究センター

11:45	O-O-03	稲城南山東部土地区画整理事業におけるオオタカ保全措置について *板谷 浩男 1、古松 正博 1、鬼久保 浩正 1、伊藤 彰朗 2、山崎 俊浩 3 1.パシフィックコンサルタンツ株式会社, 2.株式会社緑生研究所, 3.南山東部土地区画整理組合
12:00	O-O-04	空中・水上両用ドローンを用いた簡易的な河床材料調査手法に関する検討 *大中 臨 1、赤松 良久 1、宮園 誠二 1、丸山 啓太 1、坂本 佑太 2 1.山口大学大学院創成科学研究科, 2.山口大学社会建設工学科
12:15	O-O-05	森林火災後の下層植生回復 *村上 萌 1、加藤 顕 2、蝦名 益仁 3, 1 1.北海道大学大学院環境科学院, 2.千葉大学大学院園芸学研究院, 3.北海道立総合研究機構林業試験場
セッション P 植物・植生		
09:00	O-P-01	空間解像度の異なる二年代の植生図を用いた植生・土地利用変化の把握手法の検討 *小川 みどり 1、鎌田 磨人 2 1.徳島大学大学院先端技術科学教育部, 2.徳島大学大学院社会産業理工学研究部
09:15	O-P-02	タシロランの保全対策としての播種の有効性の検討 *與那城 千恵 1、松井 敏彦 1、重吉 実和 1、谷浦 拓馬 1、山内 寛 1、芦野 洸介 1、遊川 知久 2 1.中央復建コンサルタンツ株式会社, 2.国立科学博物館 筑波実験植物園
09:30	O-P-03	都市における自然再生の評価とマネジメント手法の提案 *馬庭 彪悟 1、須藤 朋美 2、伊東 啓太郎 2 1.九州工業大学大学院工学府, 2.九州工業大学大学院工学研究院
09:45	O-P-04	Comparison between the Responses of Myriophyllum Roraima and Egeria Densa to Microplastics Exposure *劉 剣至 1、SENAVIRATHNA M.D.H.J.1、藤野 毅 1 1.埼玉大学
10:00	O-P-05	アズマネザサの刈り取りがムラサキシキブ属 2 種の種子発芽および初期成長に及ぼす影響 *中島 宏昭 1, 3、森山 蒼大 2、田中 聡 3、鈴木 貢次郎 3 1.下田市役所, 2.株式会社ダイアックス, 3.東京農業大学地域環境科学部
10:15	O-P-06	航空レーザ測量データによるタケの稈長の推定 *手塚 透吾 1、溝口 裕太 1、篠原 隆佑 1、崎谷 和貴 1、斉藤 展弘 2 1.国立研究開発法人土木研究所, 2.国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所
10:30	O-P-07	石垣島耕地防風林の 50 年間の管理施業による林分構造変遷と多面的利用の可能性 *竹中 浩一 1 1.国際農林水産業研究センター農村開発領域
10:45	O-P-08	剣山系尾根上の草原に侵入したウラジロモミの成長とシカ被害の状況把握 *戴 帰航 1、小川 みどり 1、丹羽 英之 2、鎌田 磨人 3

		1.徳島大学大学院先端技術科学教育部, 2.京都先端科学技術大学バイオ環境学部, 3. 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
11:00	O-P-09	小田貫湿原のノハナショウブ開花数の変化に及ぼす人為的介入の影響 *中込 光穂 1 1.静岡大学総合科学技術大学
11:15	O-P-10	津波攪乱跡地における人為改変度に着目した植物の種多様性と植生指数の8年間の変化 *田畠 斗夢 1、富田 瑞樹 2、菅野 洋 5、平山 英毅 2、3、平吹 喜彦 4、原 慶太郎 2 1.東京情報大学大学院, 2.東京情報大学, 3.千葉大学環境リモートセンシング研究センター, 4.東北学院大学, 5.東北緑化環境保全株式会社
09:45	O-P-04	Comparison between the Responses of Myriophyllum Roraima and Egeria Densa to Microplastics Exposure *劉 釗至 1、SENAVIRATHNA M.D.H.J.1、藤野 毅 1 1.埼玉大学
10:00	O-P-05	アズマネザサの刈り取りがムラサキシキブ属 2 種の種子発芽および初期成長に及ぼす影響 *中島 宏昭 1、3、森山 蒼大 2、田中 聡 3、鈴木 貢次郎 3 1.下田市役所, 2.株式会社ダイアックス, 3.東京農業大学地域環境科学部
10:15	O-P-06	航空レーザ測量データによるタケの稈長の推定 *手塚 透吾 1、溝口 裕太 1、篠原 隆佑 1、崎谷 和貴 1、齊藤 展弘 2 1.国立研究開発法人土木研究所, 2.国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所
10:30	O-P-07	石垣島耕地防風林の 50 年間の管理施業による林分構造変遷と多面的利用の可能性 *竹中 浩一 1 1.国際農林水産業研究センター農村開発領域
10:45	O-P-08	剣山系尾根上の草原に侵入したウラボシモミの成長とシカ食害の状況把握 *戴 帰航 1、小川 みどり 1、丹羽 英之 2、鎌田 磨人 3 1.徳島大学大学院先端技術科学教育部, 2.京都先端科学技術大学バイオ環境学部, 3. 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
11:00	O-P-09	小田貫湿原のノハナショウブ開花数の変化に及ぼす人為的介入の影響 *中込 光穂 1 1.静岡大学総合科学技術大学
11:15	O-P-10	津波攪乱跡地における人為改変度に着目した植物の種多様性と植生指数の8年間の変化 *田畠 斗夢 1、富田 瑞樹 2、菅野 洋 5、平山 英毅 2、3、平吹 喜彦 4、原 慶太郎 2 1.東京情報大学大学院, 2.東京情報大学, 3.千葉大学環境リモートセンシング研究センター, 4.東北学院大学, 5.東北緑化環境保全株式会社
セッション Q 水質		
11:30	O-Q-01	Effects of Light Intensity on the Vertical Distribution of Microcystis aeruginosa Colonies

11:45	O-Q-02	*晏 宏宇 1、SENAVIRATHNA M.D.H.J.1、藤野 毅 1 1.埼玉大学 Effect of different light and temperature combinations on <i>Microcystis aeruginosa</i> *Jayasanka Senavirathna1、Aihemaiti Bahaguri1 1.埼玉大学理工学研究科
セッション R ダム		
12:00	O-R-01	流水型ダム貯水池に残置された巨石が地形多様化に与える効果 *中村 亮太 1、竹門 康弘 1、角 哲也 1 1.京都大学
12:15	O-R-02	ダム下流における石礫の露出高及びコケ植物の被度がアユの採餌場所利用に及ぼす影響 *小野田 幸生 1、兼頭 淳 2、中村 圭吾 3 1.土木研究所(現 豊田市矢作川研究所), 2.株式会社建設技術研究所, 3.土木研究所(現 公益財団法人 リバーフロント研究所)

セッション S 動物		
09:00	O-S-01	長良川流域におけるアユの時空間動態～成長期から産卵期の分布を決める水文トリガー～ *永山 滋也 1、原田 守啓 1、藤井 亮吏 2、末吉 正尚 3 1.岐阜大学, 2.岐阜県水産研究所, 3.国立環境研究所
09:15	O-S-02	砂防事業におけるニホンリスの環境保全措置及び工事中モニタリング調査の事例 *小田 優佳 1、増永 功 1、浮田 健一 1、安東 新吾 1 1.株式会社荒谷建設コンサルタント
09:30	O-S-03	徳島県那賀川流域のダム湖におけるコウモリ類の採餌活動 *佐藤 雄大 1、中西 真 1、赤坂 卓美 2、河口 洋一 1 1.徳島大学, 2.帯広畜産大学
09:45	O-S-04	氾濫原の景観変化が砂礫性オサムシ類と水生昆虫との関係性に与える影響 *玉田 祐介 1, 2 1.株式会社長大, 2.帯広畜産大学
10:00	O-S-05	レーザー計測システムを用いた猛禽類の飛翔高度の検証 *山川 将径 1、前 正人 1、片桐 寿通 1、田屋 祐樹 1、加茂川 千枝 1、上野 裕介 2 1.株式会社 国土開発センター, 2.石川県立大学
10:15	O-S-06	環境 DNA 定量メタバーコーディング法を用いた河川魚類の移入・絶滅プロセスの検討 *宮園 誠二 1、宮平 秀明 1、花岡 拓身 1、赤松 良久 1、中尾 遼平 1 1.山口大学大学院創成科学研究科

5. ポスター発表

日時：2022 年 9 月 22 日（木） コアタイム A:12:00～12:45 B:12:45～13:30

会場：つくば国際会議場 小会議室 303 405 406

ポスター発表は下記に示す 176 編の発表が予定されています。会場での掲示、コアタイムのほか、e-poster による掲示、書き込み機能を利用した意見交換が可能でう。e-poster は 9 月 11 日から ELR2022 つくばのホームページ (<https://elr2022.com/>) で掲載予定です。

ポスター発表 9 月 22 日(木)

緑化
令和 2 年 7 月豪雨に伴う林道切取法面の崩壊とその発生要因 *寺本 行芳 1、下川 悦郎 2、江崎 次夫 3、土居 幹治 4、松本 淳一 4 1.鹿児島大学農学部, 2.鹿児島大学名誉教授, 3.愛媛大学名誉教授, 4.マルトモ株式会社
火山性荒廃斜面における三日月形治山緑化資材の2年間の植生回復と表面侵食 *小川 泰浩 1、上條 隆志 2、巒 春陽 3、武藤 恵 4 1.国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所, 2.筑波大学生命環境系, 3.筑波大学生命環境科学研究科, 4.筑波大学理工情報生命学術院
視点場から撮影した動画と VR を用いた緑地景観の印象評価-光環境の違いに着目して- *平井 茜 1、杉浦 徳利 2、上町 あずさ 2 1.武庫川女子大学大学院建築学研究科(現:株式会社銭高組), 2.武庫川女子大学建築学部景観建築学科
間伐による伐採後 5 年経過したスギ・ヒノキ水平根の RBMw パラメータの推定と補強強度推定への適用 *島田 博匡 1 1.三重県林業研究所
客土と耕起が草原生植物の初期定着に及ぼす効果の検証 *相澤 章仁 1、寺井 学 1 1.株式会社大林組
自由学園における分収造林制度を利用した学校林の展開と新しい地域連携モデルへの移行 *吉川 慎平 1 1.自由学園 環境文化創造センター
胆沢ダム建設で生じた原石山跡地の植生回復 *瀧口 俊 1、藤田 大知 1、浅見 和弘 1 1.応用地質株式会社
ススキ (<i>Miscanthus sinensis</i> Andersson) の地域性種苗を使用した斜面緑化における緑化資材の検討 *古野 正章 1、保浦 成徳 2、鶴田 徹 2、服部 浩崇 2、田中 淳 3、吉原 敬嗣 4、内田 泰三 5 1.九州産業大学大学院工学研究科, 2.前田工織株式会社, 3.国土防災技術株式会社, 4.紅大貿易株式会社, 5.九州産業大学建築都市工学部
緑化土壌を対象としたバイオ炭混合による保水効果の検証

*松岡 達也 1、平野 堯将 1、渡部 陽介 1、黒岩 洋一 1、小島 啓輔 1、隅倉 光博 1 1.清水建設(株)技術研究所
海岸林のギャップに植栽されたクロマツの成長と光環境の関係
*山佐 圭吾 1、岡 浩平 1、吉崎 真司 2 1.広島工業大学 環境学部, 2.東京都市大学 環境学部 名誉教授
ネパール国カブレ郡での地域連携による森づくりの実践と今後の課題・展望 *小田 幸子 1 1.自由学園 環境文化創造センター
北海道における地被植物(ミント類)を導入した畦畔景観の維持管理に対する農家の意識変化 *上杉 鮎香 1、松島 肇 2、森本 公美子 3 1.北海道大学農学部, 2.北海道大学大学院農学研究院, 3.名古屋市
地域性系統のススキ (<i>Miscanthus sinensis</i> Andersson) を用いた斜面崩壊地の緑化事例 *古野 正章 1、内田 泰三 2、伊津見 和広 3、田中 淳 4 1.九州産業大学大学院工学研究科, 2.九州産業大学建築都市工学部, 3.株式会社ツチヤ工業, 4.国土防災技術株式会社
鉄筋枠構造体と木本樹木根系の「グリップ効果」による盛土法先崩壊抑止対策(その1) ー大型木枠土槽による屋外観察試験(地盤&土槽の変状)ー *杉山 太宏 1、山形 隆三 2、西野 文貴 3、武井 理臣 3、伊藤 美咲 1 1.東海大学, 2.山形開発工業株式会社, 3.株式会社グリーンエルム・東京農業大学
鉄筋枠構造体と木本樹木根系の「グリップ効果」による盛土法先崩壊抑止対策(その2) ー大型木枠土槽による屋外観察試験(植栽したポット苗の根系伸長)ー *西野 文貴 1, 2、山形 隆三 3、杉山 太宏 4、武井 理臣 1, 2、伊藤 美咲 4 1.株式会社グリーンエルム, 2.東京農業大学, 3.山形開発工業株式会社, 4.東海大学
貯蔵条件の違いによるイロハモミジとクリーピングレッドフェスク 種子の含水率と発芽率推移の比較 *小野 幸菜 1、吉田 寛 1 1.東興ジオテック株式会社
阿蘇地域におけるススキ (<i>Miscanthus sinensis</i> Andersson) 種子の 採取時期と温度条件による発芽率の違い *森 優芽 1、小澤 怜奈 1、中村 華子 2、橘 隆一 1、福永 健司 1 1.東京農業大学地域環境科学部, 2.緑化エラボ
<i>Solanum incanum</i> 及び <i>S.somalense</i> の土壌改良資材としての有用性 *加藤 康太 1 1.東京農業大学大学院 地域環境科学研究科 林学専攻
オフィスの植栽を利用した園芸活動による就業者のワークエンゲージメント およびウェルビーイング・社会的健康の改善に関する検証 *小島 倫直 1、花里 真道 2、岩崎 寛 2 1.株式会社竹中工務店, 2.国立大学法人千葉大学
底面給水による育苗がスギコンテナ苗の成長と根鉢形成に及ぼす影響 *近藤 晃 1

1.静岡県立農林環境専門職大学短期大学部
Street tree composition and diversity in urban area of Kyoto City *譚 瀟洋 1、康 傑鋒 2、柴田 昌三 2 1.公益財団法人 地球環境戦略研究機関 IGES, 2.京都大学大学院 地球環境学堂
海岸埋立地の植栽林の萌芽更新におけるいくつかの樹種の萌芽枝生育量の比較 *広永 勇三 1 1.元千葉大学園芸学研究科
土の締固め度と土壌硬度ならびに草本根系伸長に関する基礎実験(その2) *伊藤 美咲 1、杉山 太宏 1、池谷 真希 1 1.東海大学
都市環境
都市河川の魚類群集構造と環境要因に関する基礎的知見 *丸岡 慶祐 1、巖島 怜 1、木内 豪 1 1.東京工業大学
都市緑化樹木の樹冠の高さ毎の蒸散量の差異の検討 *手代木 純 1、石田 泰之 2、持田 灯 2 1.公益財団法人 都市緑化機構, 2.東北大学
野生植物の生育地としての街路樹空間に関する研究 —函館市の木本植物・つる性植物の調査から *村上 健太郎 1、雲山 一葉 2、粕加屋 風汰 3 1.北海道教育大学(函館校)教育学部, 2.北海道庁, 3.北上市役所
水辺ビオトープにおける物理的環境操作による蚊の発生抑制の検討 *福丸 拳梧 1、大澤 啓志 2 1.株式会社シー・アイ・シー, 2.日本大学生物資源科学部
草原周辺の宅地率の違いは送粉相互作用関係を変化させるか？ *辻本 翔平 1、野田 顕 2、西廣 淳 1 1.国立環境研究所, 2.東邦大学
植物・植生
UAV を用いた津波攪乱跡地と盛土上に生育するクロマツの樹高推定 *大垣 岳斗 1、富田 瑞樹 2、平山 英毅 2、3、平吹 喜彦 4 1.東京情報大学大学院, 2.東京情報大学, 3.千葉大学環境リモートセンシング研究センター, 4.東北学院大学
北海道空知地方におけるずり山の植物種の多様性—局所スケール要因に着目して— *河合 仁美 1、森本 淳子 1、酒井 裕司 2、3、中村 太士 1 1.北海道大学農学院, 2.イメージランドスケーププランニング, 3.NPO 法人 炭鉱の記憶推進事業団
地熱発電所冷却塔からの排出蒸気に含まれる硫化水素ガスによる植物影響に関する一考察 ～火山ガス噴気孔 周辺でのブナの観察実験～ *木村 啓 1、菅野 洋 1、平山 英毅 2、富田 瑞樹 2、富田 尚樹 1、岡田 真秀 1 1.東北緑化環境保全株式会社, 2.東京情報大学

Evaluation of a new Index calculated based on NDVI images to compare individual plant health of a riparian vegetation *ZUMULATI MAIMAITI1、Jayasanka Senavirathna1 1.埼玉大学理工学研究科
異なる温度条件下におけるシダ植物の胞子発芽と前葉体成長 -実用化に向けての取り組みと現状について- *武井 理臣 1、2、西野 文貴 1、2、高野 公志、清澤 賢司 1、橘 隆一 2、福永 健司 2 1.株式会社グリーンエルム、2.東京農業大学
葉形質から説明される湿地生植物の生態学的特性 *原田 竜輔 1、比嘉 基紀 2 1.高知大学大学院総合人間自然科学研究科、2.高知大学理工学部
小型 UAV を活用した津波被災地における海浜植物ケカモノハシ の空間分布の評価 *栗栖 寛和 1、岡 浩平 1、平吹 喜彦 2、松島 肇 3 1.広島工業大学環境学部、2.東北学院大学教養学部、3.北海道大学大学院農学研究院
自然災害による一時的な塩分汚染がチカラシバおよびススキの発芽に及ぼす影響 *亀井 碧 1、中島 敦司 2 1.和歌山大学大学院システム工学研究科、2.和歌山大学システム工学部
両性花序をもち種子生産するジャヤナギに似たヤナギ属個体のアポミクシス性の検討 *中村 彰宏 1、伊藤 由希 1、竹谷 祐介 1、名波 哲 1 1.大阪公立大学
芹川堤防上に生育するケヤキ古木の根系発達状況の把握について *森岡 千恵 1、塩見 真矢 1、多田 亨 2 1.日本工営(株)、2.(有)緑汎
大山隠岐国立公園鏡ヶ成草原における火入れによる植生管理 *日置 佳之 1、谷本 百望 2、藤本 有咲 3、本部 星 4、猪山 裕之 1 1.鳥取大学、2.西武造園(株)、3.内山緑地建設(株)、4.アジア航測(株)
UAV 画像を対象とした CNN と FCM によるスズランの花領域検出法の開発 *白井 光 1、景山 陽一 1、長本 大介 2、野口 智史 2、竹門 玄地 2、西村 唯 2、小嶋 照男 3、秋沢 成江 3 1.秋田大学、2.建設環境研究所、3.エコテック地域環境センター
ニホンジカの分布拡大シミュレーションと植生被害度の空間分布 *比嘉 基紀 1 1.高知大・理工
メッシュシートの日合いの大きさとオオイタドリ (<i>Fallopia sachalinensis</i> (F. Schmidt) Ronse Decr.) の生育抑制 *佐藤 厚子 1、林 宏親 1 1.寒地土木研究所
皆伐更新地の植生管理が開花フェノロジーと訪花昆虫に与える影響 *赤尾 智宏 1、倉本 宣 2 1.明治大学大学院農学研究科、2.明治大学農学部
ナラ枯れ被害木の伐採・搬出による近接木の被害遅延の可能性

*松本 薫 1 1.埼玉森林インストラクター会
非高木種ヒサカキとヤブツバキの根系構造と土壌硬度 *山瀬 敬太郎 1、今若 舞 2、大橋 瑞江 2、池野 英利 3、藤堂 千景 1、伊東 康人 1、檀浦 正子 4、谷川 東子 5、平野 恭弘 5 1.兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター, 2.兵庫県立大学, 3.福知山公立大学, 4.京都大学, 5.名古屋大学
関東地方南部の小規模なオープンスペースにおける風散布種子の時間的・空間的分布 *片山 暖那 1、倉本 宣 1 1.明治大学
仙台湾沿岸における津波による低頻度大規模攪乱後 10 生育期目の植生回復と人為影響 *菅野 洋 1、富田 瑞樹 2、平吹 喜彦 3、原 慶太郎 2 1.東北緑化環境保全(株), 2.東京情報大学総合情報学部, 3.東北学院大学教養学部
大規模湿性草地のモニタリング～植生区分に UAV 画像から得られる植生指数は使えるか?～ *香川 裕之 1、菅野 洋 1、佐藤 翔 1、吉田 奏映 1、山下 雅成 1、太刀川 晴之 2 1.東北緑化環境保全株式会社, 2.前 環境省 八戸自然保護官事務所
河川水辺の国勢調査を用いた水生植物の出現傾向 *槐 ちがや 1、崎谷 和貴 1 1.土木研究所流域水環境グループ流域生態チーム
ネナシカズラ属(<i>Cuscuta</i>)によるクズの生物的防除 *内田 泰三 1、東元 太誠 1、青木 颯 1、柴田 仁 1、早坂 大亮 2 1.九州産業大学建築都市工学部, 2.近畿大学農学部
刈取り時期と刈取り高の違いがイタドリ(<i>Fallopia japonica</i> (Houtt.) Ronse Decr. var. <i>japonica</i>)の成長に及ぼす影響 横山 裕一 1、*稲垣 栄洋 1 1.静岡大学
刈取りがイタドリ(<i>Fallopia japonica</i> (Houtt.) Ronse Decr. var. <i>japonica</i>)の生産構造に及ぼす影響 横山 裕一 1、*稲垣 栄洋 1 1.静岡大学
医療薬草園と農作物園を核とした障害者の活動空間に関するデザインの考察 *馬 丁 1 1.筑波大学
木曽岬干拓地における樹木の分布拡大過程 *橋本 啓史 1、中林 雪乃 1 1.名城大学農学部
茅葺き民家を構成する植物素材の分布と土地利用の変遷—山に近い八重地集落の暮らしに着目して— *吉武 佳穂 1、藤原 道郎 1 1.兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科/淡路景観園芸学校

NDVI 画像による実験室培養 *Microcystis aeruginosa* の 光・温度条件下での生理反応評価への応用

*MUNILA AJI1、Senavirathna M. D. H. J.1

1.埼玉大学理工学研究科

仙台市沿岸部の砂浜域における津波後 10 年間の植物群集の変化

*富田 瑞樹 1、菅野 洋 2、平吹 喜彦 3、原 慶太郎 1

1.東京情報大学, 2.東北緑化環境保全株式会社, 3.東北学院大学

動物

景観の変化が湧水湿地を利用する哺乳類にもたらす影響

*徐 云竜 1、佐伯 いく代 2

1.筑波大学 生命環境学群 生物資源学類, 2.筑波大学 生命環境系

佐渡島の止水域における水生昆虫群集の特性

*松村 拓樹 1、岸本 圭子 2

1.新潟大学自然科学研究科, 2.龍谷大学先端理工学部

樹上性カエルの上陸個体数に影響する環境要因: 水田景観と気候が異なる地域間の比較

*松島 野枝 1、長谷川 雅美 1、西廣 淳 2

1.東邦大学理学部, 2.国立環境研究所

人工構造物を巧みに利用する溪流性哺乳類カワネズミ

*元木 達也 1、濱田 竜輔 1

1.株式会社環境アセスメントセンター

ニホンリスの生息地としてのスギ人工林の評価: 庄内地方における事例

*本田 鈴香 1、斎藤 昌幸 1

1.山形大学大学院農学研究科

育雛期におけるフクロウ(*Strix uralensis*)の給餌組成の日周変化

*鈴木 悠介 1

1.宇都宮大学地域創生科学研究科

中型哺乳類は積雪に覆われても林道を歩きたい

*鈴木 美緒 1、渡部 凌我 1、斎藤 昌幸 1

1.山形大学大学院

佐渡島におけるヘビ類の分布様式

*澤田 聖人 1、渡部 侑果 4、小林 幸平 5、阿部 晴恵 3、上條 隆志 2

1.筑波大学大学院 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群, 2.筑波大学 生命環境系, 3.新潟大学 佐渡自然共生科学センター, 4.新潟大学大学院 自然科学研究科 環境科学専攻, 5.新潟大学 農学部 フィールド科学人材育成プログラム

外来種

矢作川水系および猿投山周辺の丘陵地におけるエビ類 調査計画

*櫻井 郁也 1、内田 臣一 1

1.愛知工業大学

イノシシのタケノコ摂食の有無によるモウソウチク林の新稈数の違い

*藤原 道郎 1

1.兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科／淡路景観園芸学校
岡山県旭川水系における外来バラタナゴ属魚類の産卵母貝利用 *住田 崇成 1、谷口 倫太郎 1、勝原 光希 2、中田 和義 2 1.岡山大学大学院 環境生命科学研究科, 2.岡山大学学術研究院 環境生命科学学域
侵略的外来植物ギンネムの効果的・効率的な駆除手法 *徳丸 慶太郎 1、大嶺 匡史 1、増田 毅 2 1.株式会社南西環境研究所, 2.丸和バイオケミカル株式会社
外来魚の上流域への急拡大に伴う石狩川河跡湖群における魚類多様性構造の変化 *戴 秉国 1、根岸 淳二郎 2、Jiang Zhongguan 3 1.北海道大学大学院環境科学院, 2.北海道大学大学院地球環境科学研究院, 3.ドイツ統合生物多様性研究センター
無農薬水田土壌に侵入した外来植物ヒメホテイアオイの生長を制御 する灌漑形態と土壌栄養分の影響 *タパ マガラ シラザナ 1、タン ココハン 1、藤野 毅 1 1.埼玉大学理工学研究科
環境 DNA を用いた櫛田川におけるコクチバスの流れ分布の把握 *松澤 優樹 1、森 照貴 1 1.国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター
保全生態
分布北限域に生育するヒメノボタンの種子発芽および休眠特性 *高岸 慧 1、森山 実央子 1、宮本 太 1 1.東京農業大学大学院農学研究科
機械学習を用いた氾濫原生魚類の適地推定 — 琵琶湖流域を対象として *山村 孝輝 1、瀧 健太郎 1、水野 敏明 2、酒井 陽一郎 2、川瀬 成吾 3、中尾 博行 4 1.滋賀県立大学 環境科学部, 2.滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門, 3.滋賀県立琵琶湖博物館, 4.うおの会
河川と農業用水路の淡水魚類群集を対象とした潜在的な生息マップ *森 照貴 1、末吉 正尚 1、2、米倉 竜次 3、石山 信雄 4、永山 滋也 5、中川 光 1 1.土木研究所自然共生研究センター, 2.国立環境研究所生物多様性領域, 3.岐阜県水産研究所, 4.北海道立総合研究機構林業試験場, 5.岐阜大学地域環境変動適応研究センター
コウノトリビオトープの 2 タイプの既設水田魚道の遡上比較と改良土嚢魚道の効果 *立川 裕章 1、田井 魁斗 1、中尾 祐太 1、吉田 樹一 1、佐川 志朗 1、2 1.兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科, 2.兵庫県立コウノトリの郷公園
多摩丘陵の里山を残した公園における畦畔草地の保全 *紀 正 1、倉本 宣 2 1.明治大学農学研究科, 2.明治大学農学部
岡山県真庭市の津黒高原湿原における水生昆虫類の生息環境改善計画 *日笠 祐甫 1、日置 佳之 1 1.鳥取大学生態工学研究室
自然保護区での設置規制が太陽パネル開発に与える影響

*真野 丈瑠 1、中島 敦司 2 1.和歌山大学大学院システム工学研究科, 2.和歌山大学システム工学部
湿地の復元活動が生物文化多様性の保全に与える効果: 東海地方の湧水湿地を事例として *佐伯 いく代 1、李 雅諾 2 1.筑波大学生命環境系, 2.筑波大学大学院人間総合科学研究科
山地河川および平地河川のコンクリート河床に成立する底生動物群集 *太田 克哉 1、三宅 洋 1 1.愛媛大学
余市岳におけるエゾコザクラの葉緑体ゲノムの遺伝変異とその形態特性 *原 悠里 1、我妻 尚弘 1、岡本 吉弘 1、森 志郎 1 1.酪農学園大学大学院
岡山県南部の農業水路におけるタナゴ類 4 種の選好環境 *沖 千晶 1、齋藤 稔 2、勝原 光希 3、中田 和義 3 1.岡山大学大学院環境生命科学研究科, 2.国立研究開発法人国際農林水産業研究センター, 3.岡山大学学術研究院環境生命科学学域
数種類のバットディテクターによる集音可能距離の比較 *山田 芳樹 1、高橋 希 2、赤坂 卓美 2、鈴木 祐太郎 1 1.株式会社ドーコン 環境事業本部 環境保全部, 2.帯広畜産大学 環境生態学分野 保全生態学研究室
黒川遊水地群の生物相と生物多様性を支える維持管理法に関する考察 *山中 綾乃 1、皆川 朋子 1 1.熊本大学
Pfankuch 法の導入による河床安定性が底生動物群集に及ぼす影響の広域的把握 *岩見 明輝 1、太田 克哉 1、三宅 洋 1 1.愛媛大学大学院理工学研究科
Habitat contribution of the hyporheic zone to the total diversity of macroinvertebrates in rivers of Hokkaido, Japan *ALAM MD KHORSHEID1、Negishi Junjiro N.2 1.Graduate School of Environmental Science, Hokkaido University, 2.Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University
グリーンインフラ
木質バイオマス発電と組み合わせた水害防備林の持続可能な維持管理に向けた検討 *村松 輝哉 1、大槻 順朗 2 1.山梨大学工学部, 2.山梨大学大学院総合研究部
日本国内における田んぼダムの地理的な分布状況 *庄山 紀久子 1、大野 智彦 2 1.茨城大学, 2.金沢大学
応用地生態学的手法を用いた景観評価方法の提案 *下河 敏彦 1、谷川 俊治 1、鶴沢 貴文 1、稲垣 秀輝 1、小坂 英輝 1、柚原 隆英 1、生沼 洋祐 1、清水 勇介 1、荒舘 佳子 1、高橋 ひろか 1

1.株式会社環境地質
雨庭における繰り返し湛水・乾燥条件に対する植物の適性評価 *田中 美有 1 1.千葉大学大学院
福岡県新宮町における雨庭に対する住民の意識と評価に関する研究 ～株式会社立花建設企業敷地を事例として～ *阿野 晃秀 1、田中 淑恵 3、山下 三平 2 1.京都先端科学大学, 2.九州産業大学, 3.株式会社立花建設
廃校プールにおける里山資源の活用ー浮島とキンブナによる生態系の創出ー *井本 郁子 1, 2、徳江 義宏 1, 3、水野 潤 1, 4、西谷 元則 1, 5、松原 猛 1、井上 剛 1, 6、久芳 良則 1 1.(公社)日本技術士会栃木県支部, 2.(特非)地域自然情報ネットワーク, 3.日本工営株式会社, 4.平成理研株式会社, 5.株式会社 水環境プランニング, 6.株式会社 エスアイエイ環境事務所
圏央道あきる野 IC ビオトープにおける継続的維持と活用の取り組み *畑川 芳弥 1、石坂 健彦 1、鈴木 弘武 2 1.(株)ネクスコ東日本エンジニアリング 環境緑化部, 2.東日本高速道路株式会社 関東支社 技術企画課
谷津景観における放棄水田の湿地化による治水対策評価と対策優先順位の考え方についての検討 大槻 順朗 1、*野尻 雄介 1、西廣 淳 2、加藤 大輝 3 1.山梨大学, 2.国立環境研究所, 3.東邦大学
生息場・生息地評価
砂浜海岸の動物群集に及ぼす防潮堤の影響:仙台湾での調査を例に *内田 健太郎 1、柚原 剛 1、鈴木 碩通 1、市毛 峻太郎 1、占部 城太郎 1 1.東北大学・院・生命
熊本県成道寺川におけるホタルの出現個体数の変動と河川環境の関係について *有吉 雄哉 1 1.福岡工業大学
谷あいの休耕田における植生の違いがヘイケボタルの生息密度に及ぼす影響 *小林 拓真 1 1.和歌山大学大学院システム工学研究科
土石流危険渓流におけるナガレホトケドジョウの生息淵の特性とホームレンジー攪乱に対する適応戦略ー *田井 魁人 1、立川 裕章 1、中尾 祐太 1、中 晶平 2、佐川 志朗 1, 3 1.兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科, 2.奈良県水循環・森林・景観環境部, 3.兵庫県立コウノトリの郷公園
林道脇に生じる水たまりにおけるトウホクサンショウウオの産卵利用 *笹岡 夏保 1、斎藤 昌幸 1 1.山形大学大学院
ハリヨ生息地津屋川湧水群の洪水攪乱に関する検討 *鷺見 哲也 1、吉川 慎平 2

1.大同大学, 2.自由学園
石川県におけるブナ科樹木 3 種の堅果エネルギー量から見るツキノワグマの出没 *鈴木 愛海 1 1.石川県立大学
琴似発寒川におけるサケおよびサクラマス産卵床分布の比較 *鈴木 享子 1、原田 貴之 1、有賀 望 2、吉富 友恭 1 1.東京学芸大学, 2.札幌市豊平川さけ科学館
河川-農水路ネットワークと水路内環境が氾濫原性魚類に与える影響 *末吉 正尚 1、米倉 竜次 2、森 照貴 3、石山 信雄 4、中村 圭吾 5 1.国立環境研究所生物多様性領域, 2.岐阜県水産研究所, 3.土木研究所自然共生研究センター, 4.北海道立総合研究機構林業試験場, 5.リバーフロント研究所
ダムの影響を考慮した底生動物分布モデルにおける複数の集団学習手法の検討・比較 *田中 凌央 1、糠澤 桂 2、鈴木 祥広 3 1.宮崎大学大学院工学研究科工学専攻, 2.宮崎大学准教授工学部工学科土木環境工学プログラム, 3.宮崎大学教授工学部工学科土木環境工学プログラム
甲府盆地における利水利用が小河川の魚類相に与える影響の評価 *外丸 広大 1、倉田 佳歩 2、大槻 順朗 3、中村 高志 3、八重樫 咲子 3 1.山梨大学大学院医工農学総合教育部, 2.山梨大学工学部, 3.山梨大学大学院総合研究部
河跡湖の樹林化に伴うトンボ類の生息状況の変化—木曾川の笠松トンボ天国の事例— *東川 航 1、松澤 優樹 1 1.(国研)土木研究所 自然共生研究センター
気候変動下の遺伝子流動動態予測: 流域の水温異質性が支えるハナカジカ個体群の維持機構 *中島 颯大 1、2、鈴木 啓明 3、4、中津川 誠 3、松尾 歩 5、廣田 峻 5、陶山 佳久 5、中村 太士 1 1.北海道大学, 2.土木研究所, 3.室蘭工業大学, 4.道総研, 5.東北大学
コウノトリ育む水田における 3 種のカエル類の産卵場所モデルに基づく水田再生とその効果 *中尾 祐太 1、藤田 大空 1、末本 貴大 1、松本 聖斗 1、立川 裕章 1、田井 魁人 1、吉田 樹一 1、田和 康太 2、佐川 志朗 1、3 1.兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科, 2.国立環境研究所 気候変動適応センター, 3.兵庫県立コウノトリの郷公園
コウノトリ育む水田における落水が水生動物に与える影響 *吉田 樹一 1、立川 裕章 1、中尾 祐太 1、田井 魁人 1、佐川 志朗 1、2 1.兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科, 2.兵庫県立コウノトリの郷公園
環境DNA
湿地性希少種ヒメタイコウチ(<i>Nepa hoffmanni</i>)の奈良県内生息域における分布調査 *牛尾 菜花 1、土居 秀幸 2、窪田 敏 3、片野 泉 4 1.奈良女子大学理学部化学生物環境学科, 2.兵庫県立大学大学院情報科学研究科, 3.五條のヒメタイコウチを守る会, 4.奈良女子大学大学院自然科学系
河川水辺の国勢調査(河川版)における捕獲調査季節と確認種に関する検討

*村岡 敬子 1、金谷 将志 2、菅野 一輝 1、篠原 隆佑 1、中島 颯大 1、崎谷 和貴 1 1.国研 土木研究所, 2.国土交通省
河川水辺の国勢調査(ダム版)における捕獲調査季節と確認種に関する検討 *村岡 敬子 1、金谷 将志 2、菅野 一輝 1、篠原 隆佑 1、中島 颯大 1、崎谷 和貴 1 1.国研 土木研究所, 2.国土交通省
釜無川および塩川流域の水生昆虫を対象とした環境 DNA メタバーコーディング *八重樫 咲子 1、佐々木 勇人 2、野村 虹之介 2、金子 栄廣 1 1.山梨大学院・総研部, 2.山梨大学・工
スイゲンゼニタナゴおよび近縁タナゴ類 3 種の環境 DNA 検出法の検討 *大槻 華乃子 1、5、濱田 麻友子 2、小出水 規行 3、坂本 竜哉 2、中田 和義 4 1.岡山大学大学院環境生命科学研究科, 2.岡山大学自然科学学域牛窓臨海実験所, 3.農研機構本部, 4.岡山大学学術研究院環境生命科学学域, 5.株式会社カイハツ
環境 DNA 減衰過程におよぼす泥と流れの影響 *辻 恵実 1、片野 泉 2、土居 秀幸 3 1.奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科, 2.奈良女子大学大学院自然科学系, 3.兵庫県立大学大学院情報学研究科
環境 DNA 分析による野川における魚類相の比較 ー整備状況の異なる区間に着目してー *柳川 善光 1、三雲 祥太 1、吉田 安理沙 2、鈴木 享子 3、吉富 友恭 3 1.日立製作所, 2.東京学芸大学大学院, 3.東京学芸大学
野川における環境 DNA 分析を導入した魚類相調査の有用性の検討 ー採捕調査との比較からー *吉田 安理沙 1、鈴木 享子 2、吉富 友恭 2、柳川 善光 3 1.東京学芸大学大学院, 2.東京学芸大学, 3.日立製作所
MiFish 法による環境 DNA 分析において参照配列との一致率が低い魚種・地域の特定 *菅野 一輝 1、篠原 隆佑 1、中島 颯大 1、村岡 敬子 1、崎谷 和貴 1、金谷 将志 2 1.土木研究所 流域水環境研究グループ 流域生態チーム, 2.国土交通省 河川環境課
環境 DNA とネットワーク分析によって解き明かす歴史的な都市用水網の魚類の多様性 *江口 健斗 1、上野 裕介 1、郡司 未佳 2、今村 史子 2、乾 隆帝 3 1.石川県立大学, 2.日本公営(株)中央研究所, 3.福岡工業大学
モニタリング
河川堤防植生の評価に向けたマルチスペクトルセンサの活用について *田崎 冬記 1、清水 一平 1、吉田 暁 1、渡邊 幸一 1 1.(株)北開水エコンサルタント
iPad Pro 搭載 LiDAR により取得した点群を用いた市街地内の緑化地における毎木調査の試行 *小宅 由似 1、重原 奈津子 2、吉岡 威 3、小田 龍聖 4 1.香川大学創造工学部, 2.京都市環境保全活動推進協会, 3.街路樹診断協会, 4.森林総合研究所
ドローン空撮の適時性を活かした農業・農村環境のモニタリングの可能性 *栗田 英治 1 1.国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門

ウチョウランの移植による保全対策と 22 年後のモニタリング *室伏 幸一 1、遊川 知久 2、吉崎 真司 3、朝倉 俊治 1 1.株式会社環境アセスメントセンター, 2.国立科学博物館筑波実験植物園, 3.東京都市大学環境学部名誉教授
河川水辺の国勢調査(河川環境基図)における衛星画像を活用した解析の可能性 ～渡良瀬川での事例を基に～ *山口 皓平 1、徳江 義宏 2、難波 広樹 1、五十嵐 美穂 1 1.日本工営株式会社 地球環境事業部 環境部, 2.日本工営株式会社 中央研究所 技術開発センター
コウモリ類の超音波音声データを用いた種同定システムの開発 *梅本 章弘 1、亀山 剛 1、伊藤 岳 1、森岡 諒 2 1.復建調査設計株式会社, 2.株式会社 Will Smart
森林での分布調査のための UAV 画像入データベースの開発 ーブナ林での開花調査への適用ー *中村 彰宏 1、木田 和泉 2、木寺 由樹 3、唐木 優歌 4 1.大阪公立大学, 2.林野庁中部森林管理局, 3.株式会社大幸造園, 4.阪神園芸株式会社
河川環境
ユスリカ幼虫による亜鉛イオンの取り込みと体内の亜鉛イオン動態の可視化 *永岡 洸介 1、Shrestha Ashok Kumar1、藤野 毅 1、萩森 政頼 2 1.埼玉大学, 2.武庫川女子大学
伝統的河川工法・聖牛により創出されたワンド・低水敷タマリの環境と生物群集 *中村 萌 1、田中 亜季 2、石田 裕子 3、竹門 康弘 4、土居 秀幸 5、片野 泉 6 1.奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科, 2.大阪公立大学, 3.摂南大学理工学部都市環境工学科, 4.京都大学防災研究所, 5.兵庫県立大学大学院情報科学研究科, 6.奈良女子大学研究員自然科学系
ALB 点群データから算出される河床凹凸指標に基づくアユ好漁場の特性把握 *小川 大介 1、堀田 大貴 1、遠藤 慎一 1、海津 利幸 2、細井 寛昭 2 1.(株)建設技術研究所中部支社環境室, 2.(株)建設技術研究所中部支社河川部
平成 29 年九州北部豪雨後の中小河川における大規模な河川改修は 河道や魚類相をどう変化させたのか？ *富重 幹太 1、皆川 朋子 1 1.熊本大学
愛知川におけるアユとビワマスの産卵床分布の比較 *東 善広 1、水野 敏明 1、小倉 拓郎 2 1.滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, 2.筑波大学
荒川水系黒目川における親水利用頻度の高い場所での魚類生息状況について *リュウ シンイウ 1、峯岸 遼河 2、唐 奥 2、田中 あや香 2、青木 宗之 3 1.東洋大学大学院, 2.元東洋大学理工学部, 3.東洋大学理工学部
球磨川における瀬淵構造の変化とアユの生息場評価 *栢木 彩香 1、皆川 朋子 1 1.熊本大学

淀川ワンド群における魚類群集と本川の侵食・堆積傾向の関係 *神崎 裕伸 1、竹門 康弘 2 1.公益財団法人河川財団近畿事務所, 2.京都大学
流域全体を俯瞰した洪水攪乱指標の提案 *平野 和希 1、原田 守啓 2 1.岐阜大学大学院 自然科学技術研究科, 2.岐阜大学准教授 岐阜大学流域圏科学研究センター
洪水流解析と連動したカワラハハコ群落の適地モデルの検討 *泉野 珠穂 1、丹羽 英之 2、瀧 健太郎 1 1.滋賀県立大学大学院 環境科学研究科, 2.京都先端科学大学 バイオ環境学部
自然堤防帯河道内氾濫原における細粒土砂堆積予測モデルの検証 *戸崎 大介 1、原田 守啓 2 1.岐阜大学大学院 自然科学技術研究科, 2.岐阜大学准教授 流域圏科学研究センター
アユの肥満度を規定する付着藻類指標は何か? -15 年間の調査データに基づくアユの肥満度と藻類の関係性解析- *白井 峻太 1、堀田 大貴 1、小川 大介 1、井川 裕介 1 1.株式会社 建設技術研究所 中部支社 環境室
2016 年北海道豪雨災害前後における美生川での河道内樹木の新規侵入特性の検討 *久加 朋子 1、山口 里実 2、西山 典志 3、清水 康行 4 1.富山県立大学, 2.国立開発研究法人 寒地土木研究所, 3.株式会社 福田水文センター, 4.北海道大学
都市における水鳥の生息地や移動空間として利用される河川の特徴 *竹重 志織 1、澤 祐介 2、加藤 和弘 3 1.放送大学大学院, 2.山階鳥類研究所, 3.放送大学
海岸・海域・汽水域
仙台北岸における海藻資源の無脊椎動物利用と分解 *根岸 淳二郎 1、大越 陽 2、内田 典子 3、大原 昌宏 4、松島 肇 5 1.北海道大学大学院地球環境科学研究院, 2.北海道大学大学院農学院, 3.東北大学災害科学国際研究所, 4.北海道大学総合博物館, 5.北海道大学大学院農学研究院
砂浜海岸の健全性を指標するスナガニ属 3 種の簡易種同定方法 *柚原 剛 1、大槻 朝 1、内田 健太郎 1、鈴木 碩通 1、市毛 峻太郎 1、占部 城太郎 1 1.東北大学 大学院 生命科学研究科
海岸砂州における徘徊性節足動物群集に対する人工構造物の影響 *大越 陽 1、松島 肇 2、根岸 淳二郎 3、大原 昌宏 4、内田 典子 5、平吹 喜彦 6、植野 晴子 1 1.北海道大学大学院農学院, 2.北海道大学大学院農学研究院, 3.北海道大学大学院地球環境科学研究院, 4.北海道大学総合博物館, 5.東北大学災害科学国際研究所, 6.東北学院大学教養学部
環境学習
河川体験活動の分析手法としてのウェアラブルカメラの有用性の検討 —児童の行動と発話の記録データをもとに— *吉富 友恭 1、鈴木 享子 1、吉橋 久美子 2、山本 大輔 3 1.東京学芸大学, 2.豊田市矢作川研究所, 3.豊田市環境政策課

緑化学に関わる「環境」「自然」の概念における変遷の整理 *高林 裕 1、福井 亘 1、小岩 実穂子 1、植地 俊輔 1 1.京都府立大学大学院生命環境科学研究科
海浜環境の維持管理における地域参画を目指した小学校での環境教育 *植野 晴子 1、松島 肇 2、鈴木 玲 3、平吹 喜彦 4、木村 浩二 5、島田 直明 6、大越 陽 1 1.北海道大学大学院農学院, 2.北海道大学大学院農学研究院, 3.北の里浜 花のかけはしネットワーク, 4.東北学院大学, 5.雪印種苗(株), 6.岩手県立大学
キャンパスの景観形成・生物多様性等への関心の醸成を目的とした自然のスクールシンボル選定の試み *吉川 慎平 1、小田 幸子 1 1.自由学園 環境文化創造センター
川学習における児童のコミュニケーションの分析 ーウェアラブルカメラに記録された発話データをもとにー *吉橋 久美子 1、山本 大輔 2、吉富 友恭 3、鈴木 享子 3 1.豊田市矢作川研究所, 2.豊田市環境政策課, 3.東京学芸大学
農村地域の子どものあそびと生態系サービスに関する研究 *須藤 朋美 1、長谷川 逸人 2、伊東 啓太郎 1 1.九州工業大学大学院工学研究院, 2.九州工業大学大学院工学府
東京都野川流域における環境活動の空間的把握とその視覚化の検討 *中城 美優 1、吉富 友恭 2 1.筑波大学大学院, 2.東京学芸大学
生態系サービス
イベント検索サイトを利用した森林レクリエーションの抽出と分類 *小田 龍聖 1、小宅 由似 2 1.森林総合研究所, 2.香川大学
地域住民による河道内植生管理と河川空間利用に関する研究 *伊豫岡 宏樹 1、中野 健人 2 1.福岡大学工学部, 2.国土交通省九州地方整備局
遠賀川流域生態系ネットワーク形成の取組 *竹本 進 1、花木 良 1、嶋田 久美子 1、宮原 彰 2、山田 将喜 2、坂本 二俊 2、柄沢 祐子 2 1.株式会社 建設環境研究所, 2.国土交通省 遠賀川河川事務所
物質循環
食品残渣由来リサイクル堆肥の水稻栽培への施用に関する研究 *大藪 崇司 1、荒井 正英 2、前田 泰芳 2 1.兵庫県立淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科, 2.五洋建設株式会社
硝酸態窒素濃度の高い溪流における窒素保持機能の評価 *笠原 玉青 1、田中 熙一 2 1.九州大学 大学院農学研究院, 2.九州大学 農学部
ランドスケープ計画
Space Syntax に基づく青島の海浜公園の景観空間分析

*周 楊 1、藤田 直子 2 1.筑波大学人間総合科学学術院, 2.筑波大学芸術系
Research on Landscape Characteristics of Tianmeng Mountain Scenic Area in Linyi City Based on Landscape Visual Sensitivity Evaluation and SBE method *徐 夢林 1、松島 肇 2 1.北海道大学 / 大学院農学院, 2.北海道大学 / 大学院農学研究院
雑木林の伐採木を利用した堆肥開発 *奥村 悠貴 1、三井 裕樹 1 1.東京農業大学大学院農学研究科
棚田保全の現状と将来性—テレワーク移住者は耕作の担い手となり得るか— *鷹尾 慧剛 1、藤田 直子 2 1.筑波大学芸術専門学群, 2.筑波大学芸術系
道路
緑化のり面の極表層土被り圧を模擬した低鉛直応力における草本植物根系の地盤補強効果 *宇高 優介 1、中村 大 1、川口 貴之 1、三浦 直己 1、宗岡 寿美 2、川尻 峻三 1 1.北見工業大学, 2.帯広畜産大学
交通利用停止から約 6 年経過した旧道における動植物の侵入 *松本 昂也 1、内田 泰三 2、荒瀬 輝夫 3 1.九州産業大学大学院工学研究科, 2.九州産業大学建築都市工学部, 3.信州大学農学部
SfM (Structure from Motion) 写真測量を活用した侵食試験方法の開発 *鍛冶元 雅史 1、中村 大 1、川口 貴之 1、川尻 俊三 1、宗岡 寿美 2 1.北見工業大学, 2.帯広畜産大学
ダム
流水型ダムが底質及び魚介類に与える影響評価—鹿児島県西之谷ダムを対象として— *津田 拓海 1、西原 涼平 2、皆川 朋子 3 1.熊本大学大学院自然科学教育部, 2.元熊本大学, 3.熊本大学大学院先端科学研究部
新丸山ダム建設事業におけるクマタカの保全に配慮した樹木伐採の進め方 *遠藤 慎一 1、竹田 智晴 1、井川 裕介 1 1.(株)建設技術研究所
宇治川の河道地形と濾過食者の生態機能 *原 直子 1、坂本 菜々子 2、田代 喬 3、土居 秀幸 4、竹門 康弘 5、片野 泉 6 1.奈良女子大学大学院人間文化総合研究科化学生物環境学専攻, 2.奈良女子大学理学部化学生物環境学科生物科学コース, 3.名古屋大学減災連携研究センター, 4.兵庫県立大学大学院情報科学研究科, 5.京都大学防災研究所, 6.奈良女子大学大学院自然科学系
カーボンニュートラル
国土交通省屋上庭園における芝地の CO2 固定能の推定 *黒沼 尊紀 1、渡辺 均 1、今井 一隆 2、手代木 純 2、渡部 亮 3、有賀 淳 3 1.千葉大学環境健康フィールド科学センター, 2.公益財団法人 都市緑化機構, 3.国土交通省
バイオマス活用のための油糧作物栽培試験について

*小澤 徹三 1、増田 俊二 1、品川 武 1、松井 爽 1、高橋 英樹 1、極楽寺 隼也 1、植野 豊 1、中島 雅之 1

1.西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社

環境修復

球磨川流域における迫の地形特性と履歴

—迫を活用した流出抑制と生物多様性の保全にむけて—

*新垣 俊介 1、一柳 英隆 2、鹿野 雄一 3、皆川 朋子 4

1.熊本大学自然科学教育部, 2.熊本県立大学, 3.一般社団法人九州オープンユニバーシティ, 4.熊本大学大学院先端科学研究部

水質

スイレンの繁茂と底泥堆積を伴う富栄養化した浅水人工池の物質収支

*辻 盛生 1、和田 洋平 1、鈴木 正貴 1

1.岩手県立大学総合政策学部

環境マネジメント

The Allelopathy Effect of Egeria densa Fresh Tissue Extracts on Cyanobacteria Inhibition

*Wijesinghe Ashika1、M.D.H.J. Senevirathna1、Fujino Takeshi1

1.Saitama University

その他

大峯奥駈道における江戸時代と現代の利用の違いとその影響

*中野 雄太 1、中島 敦司 1

1.和歌山大学

電子野帳による調査の高度化とデータ整形の自動化 ～Available な調査データが自然に蓄積していく仕組み作り～

*野村 大祐 1

1.株式会社建設環境研究所

河川流域の歴史的景観を復元する研究手法 -16 世紀後半筑後川下流の城館から②-

*中西 義昌 1

1.北九州市立自然史・歴史博物館

短期ワーケーションが都心勤務者の心理に与える効果

—奥能登における事例—

*荒井 菜穂美 1、梅原 瑞幾 1、岩城 慶太郎、岩崎 寛 1

1.千葉大学園芸学研究科

ゲームエンジンによる洪水流の可視化:伝統的治水システムの表現の試み

大槻 順朗 1、上條 彩華 1、*牧野 惇士 1、佐藤 隆宏 2、長谷川 英一 2

1.山梨大学, 2.日本工営株式会社

6. 自由（研究）集会

日時：2022 年 9 月 21 日（水）～23 日（金）開催時間は調整中

会場：つくば国際会議場 小会議室 303 405 406

参加申し込み：参加、発表登録ページからお願いします。

(<https://elr.conf.it.atlas.jp/login>)。

※自由（研究）集会のみ参加される場合も参加費が必要となります。

自由（研究）集会は下記に示す 16 の集会が予定されています。会場での参加のほか、WEB によるオンラインでの参加も可能です。詳細な開催日時は 9 月 5 日から ELR2022 つくばのホームページ (<https://elr2022.com/>) で掲載予定です。

【研究集会】

自由集会 9 月 21 日(水)～9 月 23 日(金)
1. 生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関するガイドラインの検討状況について
2. 日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会 30by30 を見据えて進める「地域性種苗」緑化の取り組み
3. 現場で短時間にできる環境 DNA 分析
4. 応用生態工学会の災害対応
5. 天然記念物指定から 102 年・田島ヶ原サクラソウ自生地保全の今後 -自然科学緊急調査検討会による調査結果から見えるもの-
6. OECM で生きる！生物多様性に配慮した緑化工学
7. 自然資本を活用していくためのローカルガバナンス
8. ダム水源地生態研究の進展（仮）
9. 河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会
10. グリーンインフラ地域実装のプロセスと求められるアクション
11. アニマルウェルフェアの考え方に配慮した動物実験・調査を考える（仮題）
12. ポストコロナ時代の魅力的な都市緑地を考える
13. 田んぼのいきものをどうやって守っていくか？—水田水域における多様な生物の保全と再生—その⑥
14. 高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える（案）
15. 生態系のレジリエンスと修復・緑化
16. i-Tree による生態系サービス評価 -事例紹介と今後の課題

2022 年 8 月 16 日時点

7. エクスカーション

日時：2022 年 9 月 20 日（火）

コース：1. 鬼怒川・小貝川コース 9:15～17:00

2. 筑波山コース 8:45～14:30

募集人員：1、2 コースとも先着 20 名限定

参加費用：一般 3,000 円、学生および学生会員 2,000 円（当日お支払い）

参加申し込み：下記必要事項をメールで送付願います。

（参加〆切 9 月 9 日（金）17:00）

送付先：ELR2022 つくば実行委会 担当 前田 elr2022office@gmail.com

タイトル：【エクスカーション参加申し込み】

記載事項：参加者氏名（グループの場合代表者と同行希望者名）、参加区分、
参加希望コース（第 1 希望、第 2 希望）、連絡先

【1. 鬼怒川・小貝川コース】

○目的

エクスカーションでは、大会テーマであるネイチャーポジティブ（Nature Positive）の目標達成のための一つである自然資本を持続可能なように利用することにも関連する流域治水の取り組みについて学ぶこととします。

流域治水は、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、流域に関わるあらゆる関係者が協働して、氾濫を出来るだけ防ぐ、減らすための対策や自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラを推進するなどの対策が進められています。そこで、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所のご協力を得て、鬼怒川・小貝川における流域治水取り組みや自然環境の保全について学ぶことにします。

○コース行程

9:15 つくば駅バス発着予定場所集合

9:30 つくば駅出発

9:30→10:00 移動（つくば駅→オオムラサキの森）

10:00～10:30 オオムラサキの森 オオムラサキの保全の取り組み 河畔林景観保全の取り組み

10:30→10:50 移動（オオムラサキの森→母子島）

10:50～11:30 母子島遊水地（流域治水（遊水地）の取り組みと初期湛水地の環境保全）

11:30→12:00 移動（母子島→道の駅）

12:00～12:45 道の駅 グランドテラス筑西にてお昼

12:45→13:45 移動（道の駅→氏家）

13:45～14:45 礫河原保全の取り組み

14:45→16:15 移動（氏家→常総市）

16:15～16:30 鬼怒川緊急対策プロジェクト対応状況

16:30→17:00 移動（常総市→つくば駅）

17:00 つくば駅着

【2. 筑波山コース】

○目的

エクスカーションでは、開催地であるつくば市の自然を代表する筑波山で実施します。見学対象は、ブナ自然林と筑波山神社の社寺林となります。見学とともに筑波山のブナ自然林の特徴、植生垂直分布、ブナ林の保全事業に着目した現地解説が行われます。現地解説は筑波大学生命環境系上條隆志（専門：植生学、森林生態学）が実施します。

○コース行程

8 : 45	つくば駅バス発着予定場所集合
9 : 00→10:00	貸し切りバスで移動（つくば駅→筑波山神社）
10:00→10 : 20	徒歩で移動（筑波山神社→ケーブルカー宮脇口）
10:20→10 : 30	ケーブルカーで移動（ケーブルカー宮脇口→筑波山頂駅）
10 : 30～11 : 30	自然散策路を歩きブナ自然林を見学。 散策路を歩いた後、ブナ林の保全事業地を見学する。
11 : 30～12 : 30	御幸平で昼食休憩
12 : 30	筑波山頂駅集合
12 : 40→12 : 50	ケーブルカーで移動（筑波山頂駅→ケーブルカー宮脇口）
12:50～13 : 30	筑波山神社周辺の社寺林見学
13 : 30→14:30	貸し切りバスで移動（筑波山神社→つくば駅）
14 : 30	つくば駅到着、解散

4 理事会・幹事会報告

4.1 第 117 回理事会 (Web 会議) 報告

第 117 回理事会 (Web 会議) が本年 8 月 4 日 (木) に開催されました。

なお、これに先立って、7 月 13 日 (水) に第 94 回幹事会が Web 会議において開催され、第 117 回理事会に付議する事項について審議が行われました。

第 117 回理事会での審議事項と審議結果は次のとおりです。

1 2022 年度 (令和 4 年度) 収支見込み

2021 年 9 月 10~25 日の第 25 回総会 (メール会議) において決定した 2022 年度予算について、現時点での会務進行状況を加味して修正を行った。

収入と支出のそれぞれについて、修正を行った主な内容は次のとおりである。

○収入

- ① 会費収入の算定基礎となる会員数について、2022 年 6 月 30 日時点の会員数に修正した。
- ② 助成金収入 助成金について、コロナ拡大の影響から地域支部主催行事の開催数の減を考慮し、1,200,000 円を 400,000 円に減額した。

以上の見直しを行った結果、当初予算に対して約 55 万円の減額となった。

○支出

- ① 会誌編集費は、Vol.24-2 の支払いが 2022 年度にずれ込んだため、約 220 万円の増額となった。
- ② 地域研究会費用は、コロナ拡大の影響から地域支部主催行事の開催数の減を考慮し、1,800,000 円を 1,400,000 円に減額した。

当期収支差額は、2,193,930 円の赤字となった。

との報告について 2022 年度 (令和 4 年度) 収支見込みは承認された。

2 2023 年度 (令和 5 年度) 事業計画案

2023 年度 (令和 5 年度) は、2023 年 4 月 1 日からスタートする。2023 年度の事業計画について、以下に示す。

1. 会誌の発行

27 巻 1 号 (2023 年 7 月発行予定)

27 巻 2 号 (2024 年 1 月発行予定)

2. ニュースレターの発行

No.100 (2023 年 5 月発行予定) : 第 26 回大会開催案内、行事開催案内、理事会報告等

No.101 (2023 年 8 月発行予定) : 大会プログラム案内、総会開催案内、行事開催案内、
理事会報告等

No.102 (2024 年 12 月発行予定) : 総会・大会報告、行事開催案内、理事会報告等

No.103 (2024 年 2 月発行予定) : 海外学会等派遣者募集、行事開催案内、理事会報告等

3. ワークショップ等の開催

各委員会及び地域研究会の積極的な活動により、普及及び研修の企画を立ててワークショップ等を実施する。

また、共催・後援に関しては、応用生態工学研究及び普及に関する行事について、積極的に企画・支

援する。

・主催・共催行事

- ① 第 26 回全国大会（開催地：京都）
- ② 第 13 回応用生態工学会全国フィールドシンポジウム（開催地：未定）
- ③ 応用生態工学会 札幌：（未定）
- ④ 応用生態工学会 仙台：（未定）
- ⑤ 応用生態工学会 東京：（未定）
- ⑥ 応用生態工学会 新潟：（未定）
- ⑦ 応用生態工学会 長野：（未定）
- ⑧ 応用生態工学会 富山：（未定）
- ⑩ 応用生態工学会 金沢：（未定）
- ⑪ 応用生態工学会 名古屋：（未定）
- ⑫ 応用生態工学会 大阪：（未定）
- ⑬ 応用生態工学会 広島：（未定）
- ⑭ 応用生態工学会 松山：（未定）
- ⑮ 応用生態工学会 福岡：（未定）
- ⑯ 応用生態工学会 那覇：（未定）
- ⑰ 応用生態工学会 岡山：（未定）

・後援行事

未定

との報告について 2023 年度（令和 5 年度）事業計画案は承認された。

3 2023 年度（令和 5 年度）予算案

2023 年度予算案は、引き続き収支を一致させる均衡予算とすることを基本に作成した。

収入と支出のそれぞれについて、予算案の考え方は次のとおりである。

○収入

- ① 会費収入は、2022 年 6 月 30 日時点の会員数に基づいて計上した。
- ② 事業収入の大会費については、2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。
- ③ 助成金収入の河川基金については、2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。また、その他の助成金については、コロナ感染の影響が収まっていると仮定し、2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。
- ④ 次の科目については、以下のとおり計上した。
 - ・雑収入の会誌別刷り収入は、2020 年度・2021 年度決算の平均額を計上した。
 - ・会誌等販売収入は、2022 年度の見込み額を計上した。
- ⑤ 事業収入の地域講座参加費および助成金収入の助成金、寄付金については、コロナ感染拡大に伴う影響を考慮し、感染拡大前の 2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。
- ⑥ 英文誌 LEE 購読料収入は ICLEE 国内運営委員会の方針が「2023 年度より LEE の個人購読料を無料とし、ICLEE 構成学会の学会員全員が LEE 誌を講読・投稿可能とする方向で調整する」になったため、2023 年度より冊子体希望者のオンデマンド印刷料のみ計上した。

○支出

- ① 管理費については、2022 年度の見込み額を計上した。
- ② 会誌編集費は 2019 年度・2020 年度決算の平均額を計上した。
- ③ 会議費のうちの総会費は、2019 年度・2020 年度決算の平均額を計上した。理事会費、幹事会費は、Web 会議多用の情勢を鑑み、年 1 回（全委員出席）の開催として計上した。
- ④ 委員会活動費は、次のとおりとした。
 - ・普及・連携委員会費は、活動費・地域イベント助成費については、2022 年度予算と同額を計上した。
 - ・国際交流委員会費では、国際シンポジウムの開催年にあたるため、国際シンポ経費 1,500,000 円を計上した。
 - ・情報サービス委員会費では、活動費は 2019 年度・2020 年度決算の平均額を計上した。ホームページ管理費は、2022 年度予算と同額を計上した。
 - ・将来構想委員会費は、2022 年度予算と同額を計上した。
 - ・技術援助委員会費は、2017 年度～2022 年度同様、ゼロ計上とした。
 - ・テキスト刊行委員会費は、活動費については「水田環境」テキストの会議費用等を考慮し、2022 年度予算と同額を計上した。
 - ・海外派遣費は、2022 年度予算と同額を計上した。
 - ・災害対応委員会費は 2022 年度予算と同額を計上した。ただし、大規模災害が発生し、理事会において災害調査団派遣が決定された場合は、一調査団当たり 100 万円程度までの範囲で災害調査費を予算措置できることとする。
- ④ 大会費は、現地単独開催を行った 2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。
- ⑤ 地域研究会費用は、2022 年度予算額と同額を計上した。
- ⑥ HP 整備費は、ホームページの整備費用のほか、Zoom ライセンス費用も含め、2022 年度予算額と同額を計上した。。
- ⑦ その他費用は、事業費の中で他項目以外に突発的に発生する費用（ただし、災害調査にの費用を除く）に対応する予算科目として、予備的経費を計上することとしており、当期収支差額が 0 円となる範囲で、可能な金額を計上した。
- ⑧ 英文誌関連費の LEE 購読料支払いは、収入額と同額とした。ICLEE 事務局維持費は、必要額を計上した。

以上を設定した結果、2023 年度予算案は、収入、支出ともに 18,937,880 円、収支差額 0 円の均衡予算となっている。

との報告について 2023 年度（令和 5 年度）予算案は承認された。

4 国際誌 LEE の運営について

1. 雑誌 LEE の経理について

LEE の経理について今後の予算計画が調整された。結果として、「来年度より LEE の個人購読料を無料とし、ICLEE 構成学会の学会員全員が LEE 誌を講読・投稿可能とする方向で調整する」ことになった。（ただし、冊子希望の場合は 1 冊 4,400 円必要）

コスト減なので問題はないと思われるが、9 月の総会での議事としたい。

なお、6 月 30 現在の応用生態工学会での LEE の購読者は 65 名（賛助会員 1 社を含む）である。

2. 特集号企画（報告）

LEE において、シンポジウム ICLEE2022 に関連した特集号の発行することになった。

この企画で各学会からゲストエディターを選出することになったので、学会から ICLEE に編集委員として出ている吉村副幹事長から学会の全体テーマに通じた専門家 1 名に依頼することを考えている。

テーマ : Nature-based Solutions for Creating Sustainable Landscapes

との報告について国際誌 LEE の運営については承認された。

5 2022 年度行事の経過と今後の予定

2022 年度(令和 4 年度)行事経過と今後の予定

4. 1	2022 年度（令和 4 年度）開始
4. 7～15	第 115 回理事会（メール会議）
4. 16	第 5 回 ELR2022 実行委員会
4. 26	ニュースレター96 号発行
5. 11	第 93 回幹事会
6. 9	第 116 回理事会
6. 22	ニュースレター97 号発行
7. 13	第 94 回幹事会
8. 4	第 117 回理事会
8. 25	ニュースレター98 号発行
8. 31	会誌「応用生態工学」Vol. 25-1 発行
9. 20～23	3 学会合同大会（ELR2022 つくば）開催 （つくば国際会議場） 9 月 20 日（火）：エクスカーショ 9 月 21 日（水）：各種委員会、研究集会、公開シンポジウム 9 月 22 日（木）：研究発表、企業展示、研究集会 9 月 23 日（金）：研究発表、企業展示、研究集会、各学会総会、 大会期間中に総会、幹事会、理事会、各委員会を開催
11 月	幹事会
12 月	理事会
12 月	ニュースレター99 号発行
1 月	幹事会
1 月	会誌「応用生態工学」Vol. 25-2 発行
2 月	理事会
2 月	ニュースレター100 号発行
3. 31	2022 年度（令和 4 年度）終了

6 事務局より

6.1 住所等の連絡先が変更となった場合は連絡をお願いします

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス E-mail: eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことでも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。よろしくお願いいたします。

6.2 退会の申し出は学会ホームページの退会フォームからお願いします

退会の申し出については、退会フォームのほかに、事務局へのメール、電話、年会費払込請求書の通信欄に記載等でなされています。事務局の見落とし等の原因の元になりますので、できるだけ退会フォームまたは件名に「退会の連絡」等明示したメールによる申し出をお願いいたします。

6.3 会員数および LEE 購読者数

2022 年 7 月 31 日現在

	会員数	対前年同時期比較	LEE 購読者数
名誉会員	10 名	増 1 名	2 名
正会員	888 名	増 17 名	※61 名
学生会員	99 名	増 13 名	2 名
合 計	997 名	増 31 名	65 名
賛助会員	46 法人 (65 口)	増 2 法人 (増 2 口)	

※賛助会員 1 社を含む